

Fish Analyzer™ Fish Analyzer™ PRO

技術資料

目次

	頁
1章 Fish Analyzer™の測定原理について	
1-1. Fish Analyzer™で脂乗りが良いと判定された魚が美味しいと言われる理由……	3
1-2. Fish Analyzer™の測定原理について……	3
1-3. 解凍品が測れない理由について……	4
1-4. Fish Analyzer™の測定範囲について – アタッチメントの装着 – ……	4
1-5. Fish Analyzer™の回路構成について……	5
2章 正しい測定を行うために	
2-1. 水揚げ当日と水揚げ翌日の定義について……	6
2-2. 正しい測定を行うために……	6
2-3. 脂肪率の決定と判定のしかたについて	
2-3-1. 脂肪率の決定について……	7
2-3-2. 脂乗りの判定基準となる統計情報について……	7
2-3-3. 脂肪の季節変動について……	7
3章 魚種毎の基本情報と測定方法について	
● Fish Analyzer™ 魚種 No.1 「アジ」……	9
● Fish Analyzer™ 魚種 No.2 「マサバ」……	10
● Fish Analyzer™ 魚種 No.3 「ゴマサバ」……	11
● Fish Analyzer™ 魚種 No.4 「マイワシ」……	12
● Fish Analyzer™ 魚種 No.5 「サンマ」……	13
● Fish Analyzer™ 魚種 No.6 「ブリ」……	14
● Fish Analyzer™ 魚種 No.7 「マグロ」……	15
● Fish Analyzer™ 魚種 No.8 「マダイ」……	17
● Fish Analyzer™ 魚種 No.9 「キンメダイ」……	18
● Fish Analyzer™ 魚種 No.10 「カツオ」……	19

	頁
● Fish Analyzer™ 魚種 No.11 「サケ」	20
● Fish Analyzer™ 魚種 No.12 「ニジマス」	21
● Fish Analyzer™ 魚種 No.13 「サワラ」	22
● Fish Analyzer™ 魚種 No.14 「メダイ」	23
● Fish Analyzer™ 魚種 No.15 「スズキ」	24
● Fish Analyzer™ 魚種 No.16 「ハタハタ」	25
● Fish Analyzer™ 魚種 No.17 「マハタ」	26
● Fish Analyzer™ 魚種 No.18 「ヒラソウダ」	27
● Fish Analyzer™ 魚種 No.19 「アナゴ」	28
● Fish Analyzer™ 魚種 No.20 「マルアジ」	29
4章 検量線モード・オリジナル計算式の作成について	
4-1. 検量線モードでの脂肪率の判定基準について	30
4-2. オリジナル計算式作成のための回帰分析について	31
(参考) ソックスレー法・比重法について	31
5章 Fish Analyzer™ PRO の「魚の状態」について	
5-1. 新しい魚の鮮度指標「魚の状態」について	32
5-2. 流通先・消費地で「魚の状態」を表示する目的	33
5-3. 生産地で「魚の状態」を表示する目的	34
5-4. 実測値で厳密な品質管理を行いたい方へ	34
6章 その他の技術資料	
6-1. 測定結果がおかしいと思ったら	35
6-2. 充電式電池のご使用のお勧め	35
6-3. 大切にお使いいただくために	
6-3-1. 電池ボックス内の清掃について	36
6-3-2. アタッチメントの清掃について	36
7章 活用事例	
7-1. 明石浦漁業協同組合の「特選品出荷」の取り組みについて	37
7-2. 津軽海峡本まぐろの「品質見える化事業」の取り組みについて	41
7-3. Fish Analyzer™ による栄養管理について	43
7-4. 魚を美味しく食べるために	43

1-1. Fish Analyzer™で脂乗りが良いと判定された魚が美味しいと言われる理由

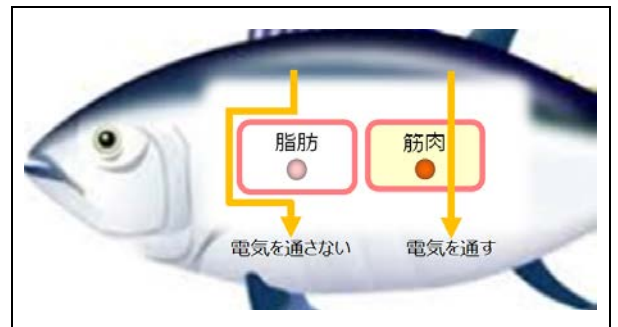
魚の皮下脂肪には、血液や血管の健康に様々な効果がある EPA（エイコサペンタエン酸）が多く含まれているだけでなく、食べたときに柔らかいという感触を与え、美味しさを倍増させます。これまで、テレビ番組や大学のオープンキャンパスなど、様々なところで脂肪率の異なる魚の食べくらべを行ってきましたが、試食いただいた多くの方に「Fish Analyzer™で脂が乗っていると判断された魚の方が、食感が柔らかく美味しい」との評価をいただいております。

その理由として、Fish Analyzer™が表示する脂肪率は、皮下脂肪を反映しやすいからだとされています。Fish Analyzer™は魚の表皮より電気を流しますので、通電性の良い筋肉の部分に到達する前に、どうしても抵抗性の強い皮下脂肪を通り抜けなければなりません。Fish Analyzer™はソックスレー法や比重法の脂質含量をもとに脂肪率の推定を行っていますが、それでも内部の脂肪よりも皮下脂肪を反映しやすく、ソックスレー法や比重法とは数値が異なる可能性があります。また、鮮度が低下した魚や熟成させた魚でも、同様の結果が得られる可能性があります。

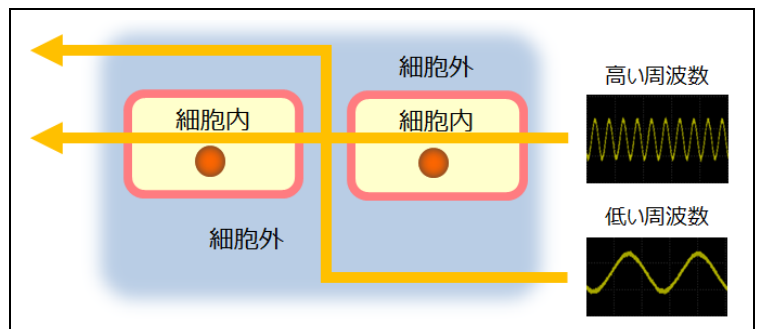
とはいえ、消費者の皆様にとって一番大切なことは、魚を美味しく食べてもらうこと、そして魚を食べてより健康になってもらうことであり、Fish Analyzer™が表示する脂肪率にはその要素が十分に含まれております。Fish Analyzer™をお使いいただく皆様には、本資料をお読みいただき、Fish Analyzer™が単にソックスレー法や比重法の脂質含量を推定する装置ではなく、美味しさを判別する装置であることをご理解いただければ幸いです。

1-2. Fish Analyzer™の測定原理について

Fish Analyzer™では、魚に電気を流すことで脂肪率や魚の状態を表示しています。魚体に電気を流した場合、筋肉のように水分を多く含む組織は電気を通し、逆に水分を含まない組織は電気を通しません。つまり、水分をほとんど含まない脂肪は電気を通さず高い抵抗性を示します。この抵抗性を「インピーダンス」と呼び、このインピーダンス法より脂肪率を導くのが Fish Analyzer™の測定原理となります。



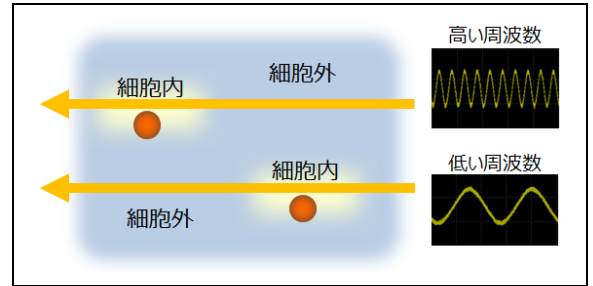
また、Fish Analyzer™では、電気を流す周期、すなわち周波数を変えて電気を流すマルチ周波数方式を採用しています。例えば、電気を通す筋肉であっても、時間当たりの周期を長くする、すなわち低い周波数帯域で電気を流すと、電気は細胞の外を流れます。逆に、時間当たりの周期を短くする、すなわち高い周波数帯域で電気を流すと、電機は細胞



の中にも流すことができます。基本的に、細胞内に電気が流れにくい、すなわち高い周波数帯域で電気が流れにくい場合は脂肪が多いのですが、一方で細胞の外で電気が流れやすい、すなわち低い周波数帯域で電気が流れやすい場合は鮮度が低下していることもわかっています。このことを踏まえ、Fish Analyzer™では 5kHz～100kHz 周波数の範囲によるマルチ周波数方式を採用し、細胞内外の抵抗成分からインピーダンスを測定し、脂肪率や魚の状態を表示しています。

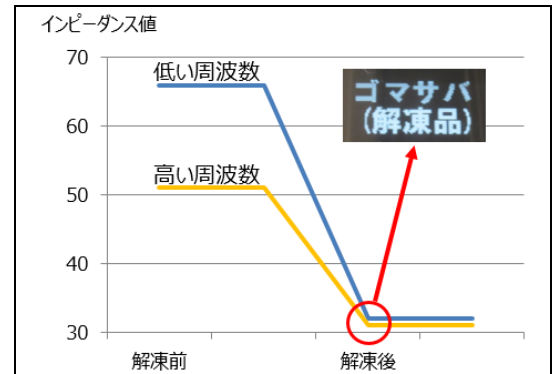
1-3. 解凍品が測れない理由について

Fish Analyzer™は、生鮮魚専用です。なぜなら、一度冷凍して再び解凍した場合、細胞を覆う細胞膜が破壊されるため、先程の細胞内外の抵抗成分の差をみることができず、周波数毎の差がなくなるからです。もちろん、解凍品を瞬時に見極められることができるのも Fish Analyzer™の大きな特徴なのですが、一方で冷凍品や解凍品は測定できませんので、ご注意ください。



基本的に低い周波数と高い周波数を比較した場合、低い周波数の方が細胞の外を通る分だけ経路が長くなり、インピーダンスは高値を示します。しかしながら、前記の通り、解凍品は魚体に含まれる水分が冷凍されることで膨張し、細胞膜を破壊することから、低い周波数も高い周波数も同じ経路をたどり、結果、同じインピーダンスを示します。

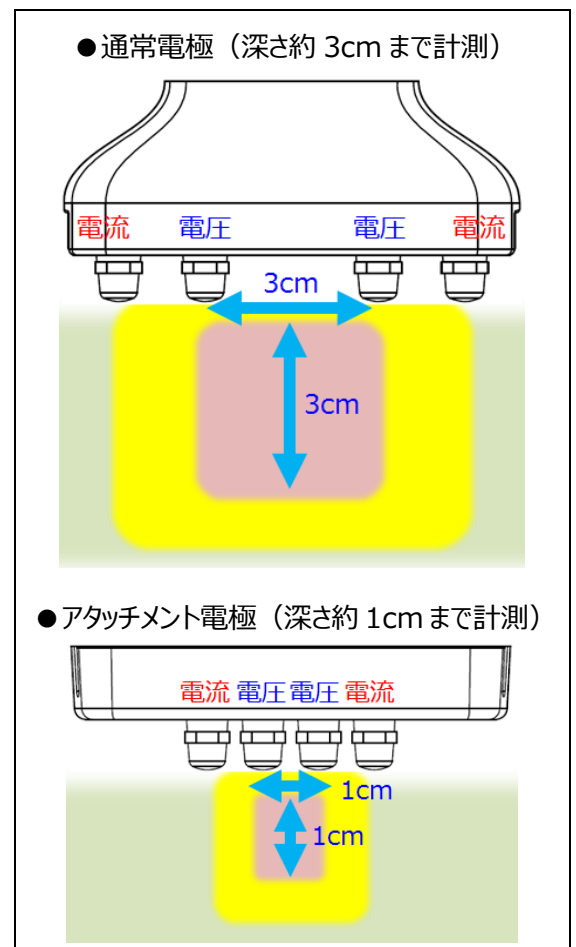
以上のことから、周波数毎の差がなかった場合、Fish Analyzer™では「解凍品」と表示します。尚、この現象は鮮度が著しく低下したり、身焼けが発生したりした場合などもみられますので、ご注意ください。



1-4. Fish Analyzer™の測定範囲について -アタッチメントの装着-

Fish Analyzer™は、下部に4つの電極を配置しています。外側が電気を流す電流極で、内側が電圧を検出する電圧極です。オームの法則に習い、「検出された電圧(V)÷魚体に流した電流(I)」を計算することで、インピーダンス(Z)は算出されます。インピーダンス法には主に2電極法と4電極法があり、2電極法は左右それぞれの電流極と電圧極をひとつにした構造で、接触部の影響を大きく受けることから表皮の測定に優れているとされています。一方、4電極法は電流極と電圧極を分けた構造で、接触部の影響を除去できることから、表皮より下の測定に優れているとされています。魚は表面が湿っていますので、表皮を反映してしまうと、脂肪が多い魚でも電気が流れやすいと判断され、正確な測定が行えません。そのため、Fish Analyzer™では4電極法を採用し、表皮より下の測定を行っています。

また、基本的に測定の深さは、電圧間の距離分に相当します。魚体の厚みが電圧間距離以上であれば測定に影響はないのですが、一方でインピーダンスは断面積に反比例する特性があり、魚体が薄いと、脂肪に関係なく高値を示します。このため、マアジ、マイワシ、サンマ、ハタハタ、アナゴについては、魚体サイズに関係なくアタッチメントを装着して測定を行ってください。同じく、検量線モードや魚の状態モードで他の魚種を測定する場合も、魚体の厚みが3cm以下であれば、アタッチメントを装着して測定を行ってください。



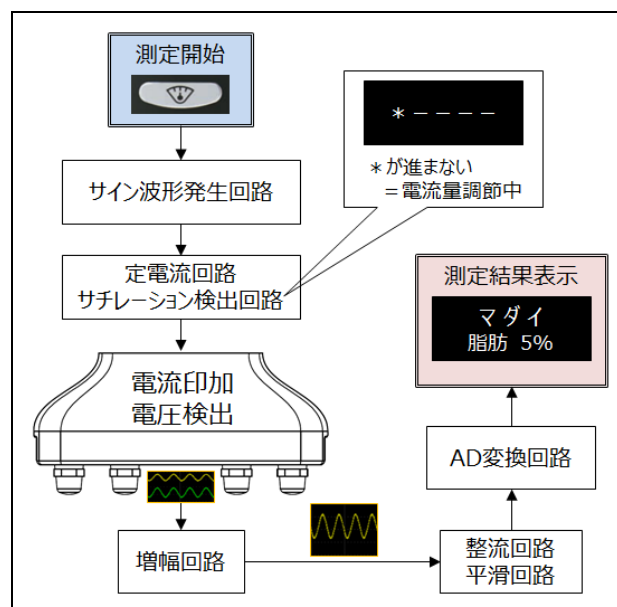
Fish Analyzer™では、腹部と尾部でも測定が行えるマグロを除き、背部に電極を当てて脂肪率の測定を行います。現在、ヒト用として販売されている体脂肪計も、実は Fish Analyzer™と同様のインピーダンス法を利用しているのですが、ヒト用の場合は指先や足の裏など身体の末端に電極を配置しますので、身体全体を測定することができます。このように、末端間同士に電極を配置する測定方法のことを「全身測定法」と言います。一方で、Fish Analyzer™のように背部など身体の一部に電極を当てる測定方法のことを「局所測定法」と言います。局所測定法は、測りたい部分に直接電極を当てますので、その部分については全身測定よりも正確に反映することができますが、一方で電極を当ててない部位については推定要素が加わります。したがって、Fish Analyzer™が表示する脂肪率は背部の脂乗りを反映した脂肪率であるご理解ください。

1-5. Fish Analyzer™の回路構成について

Fish Analyzer™では、複数の回路構成により測定を行っています。測定が開始されると、まずサイン波形発生回路にて方形波をサイン波形に変換し、次に定電流回路にてサイン波形に応じた一定の交流電流を流します。その際、サチレーション検出回路が飽和状態の有無を確認し、飽和状態を確認した場合は、基準電圧以下になるよう電流量を調節します。ウロコの大きい魚、表皮にヌメリが多い魚、逆に表皮が乾燥している魚を測定すると、「*」がひとつで止まってしまい、なかなか次に進まない場合がありますが、これはサチレーション検出回路が飽和状態を検出し、交流電流の量を絞っているからです。

交流電流にて電圧を検出したら、増幅回路にてアナログ信号を増幅し、整流回路・平滑回路にて直流化した後、最後に AD 変換回路にてデジタル信号に変換して数値化します。

正確な測定を行うためには、安定した交流電流を流すことが重要となります。測定結果がバラつく場合の多くは、表皮に何らかの問題があり、安定した交流電流が流せていませんので、そのような場合は、表皮を湿った布で軽く拭いてください。



2-1. 水揚げ当日と水揚げ翌日の定義について

測定を行う際、魚種を選択すると同時に一部の魚種を除き、「水揚げ当日」と「水揚げ翌日²⁴」のいずれかを選択します。選択のしかたについて、下記内容および P.9 の冒頭の注意事項をご覧ください。尚、両日とも正確な脂肪率を得るために、魚を氷蔵保存した上で測定を行ってください。

●「水揚げ当日」は 生産地での測定 を意味します

生産地の場合、まだ魚が生きている場合もありますが、致死後、すぐに測定を行うと脂肪率が低めに表示される場合があります。まず、氷蔵で保存いただき、少なくとも 1 時間程度は時間を置いてから測定を行ってください。また、生産地でも致死から数日が経過している場合は、水揚げ翌日²⁴で測定を行ってください。Fish Analyzer™ PRO では、脂肪率の横に魚の状態が 5 段階で表示されますが、致死から数日が経過している場合の目安として、魚の状態が「A」や「A」と表示された場合は水揚げ当日で測定を行い、「B」や「C」が表示された場合は水揚げ翌日²⁴で測定を行ってください。

●「水揚げ翌日²⁴」は 流通先での測定 を意味します

Fish Analyzer™は鮮度変化の影響を受けますので、可能な限り入荷後すぐに測定を行ってください。また、Fish Analyzer™ PRO では、脂肪率の一緒に魚の状態が 5 段階で表示されます。魚の状態が「D」と表示された場合、正確な脂肪率を得ることが難しいとお考えください。

2-2. 正しい測定を行うために

Fish Analyzer™は魚体を壊さない非破壊装置ですが、魚体に直接触れる接触型の装置でもありますので、皮下脂肪が押しつぶされ場合、数値が変わってしまいます。正確な測定を行うために、以下のポイントを覚えてください。

① 本体を正しく持つ	② 動かないように固定する	
 <p>電源キーを押して電源オンし、魚種キーで魚種を選択します。本体の持ち方は、親指を測定ボタンの上に置き、残りの指はグリップを握ります。</p>	 <p>魚体に触れてもよい場合、指先で魚体を支え、本体を固定してください。</p>	 <p>魚体に触られない場合、測定台に腕を付け、本体を固定してください。</p>
③ 魚体に電極を軽く当て、測定キーを押す	④ 測定中は画面だけでなく電極位置も見る	
 <p>所定の位置に 4 つの電極を軽く当て、確実に当たっていることを確認してから、測定キーを押してください。当てる角度は 45 度、目安として少し本体を起こすイメージで電極を当ててください。</p>	 <p>測定中、まずは画面に「*」マークが表示されたことを確認し、その後は目線を電極位置にも移し、電極位置が変わっていないか、確認してください。</p>	

2-3. 脂肪率の決定と判定のしかたについて

2-3-1. 脂肪率の決定について

前記の通り、Fish Analyzer™は接触型の装置であり、皮下脂肪の凹凸（おうとつ）具合で数値がばらつくことがあります。そのため、測定した魚の脂肪率の決定は、以下の3つの手順で行ってください。

手順① 基準法との相関が最も高いのが1回目の測定結果ですので、基本としては最初の測定結果を採用します。

→明らかに数値がおかしいと思った場合や、「*」が止まって進まなかった場合などは2回目の測定を行います。

手順② 2回目の測定を行った場合、最初の測定結果との差が±2%以内であれば、2回の平均値を採用します。

→最初の測定結果との差が±2%以上であれば、3回目の測定を行います。

手順③ 3回目の測定を行った場合、3回の真ん中（中央値）の測定結果を採用します。

（参考）大量に水揚げされた魚をすべてはかることは現実的ではありません。

このような場合、箱内の魚を5～20匹を抜き取り測定し、その平均値を箱全体の魚の脂肪率として採用します。

2-3-2. 脂乗りの判定基準となる統計情報について

脂肪率が決定したところで、果たして「脂乗りがよいのか?」、次のステップではその判定を行うこととなります。ひとつの目安として、日本食品標準成分表に記載されている「可食部100g当たり脂質」がありますが、前記の通り、Fish Analyzer™で表示される脂肪率は背部の皮下脂肪を反映しやすく、必ずしも目安になるとは限りません。そこで、3章の「魚種毎の基本情報と測定方法について」に基準値となる統計情報を記載しましたので、脂乗りを判定するひとつの目安としてご活用ください。但し、次の項で紹介しますが、魚は季節によって脂の乗りが大きく変わることがありますし、また生産地でも脂乗りが異なりますので、できればその土地毎にデータを集められることを推奨します。

● 基準値となる統計情報

①平均値	データの合計値をデータ数で割った値で、最も一般的な脂乗りの基準値です。
②25パーセンタイル値	データを脂肪率の低い順に並べ、25番目に相当する値で、最低限の脂乗りを基準とする場合に基準値として採用します。
③中央値	データを脂肪率の低い順に並べ、ちょうど真ん中の50番目に相当する値で、特出的に脂が乗った魚がいる存在する場合は、平均値ではなく中央値を採用します。
④75パーセンタイル値	データを脂肪率の低い順に並べ、75番目に相当する値で、希少価値品を作り出したい場合に基準値として採用します。

2-3-3. 脂肪の季節変動について

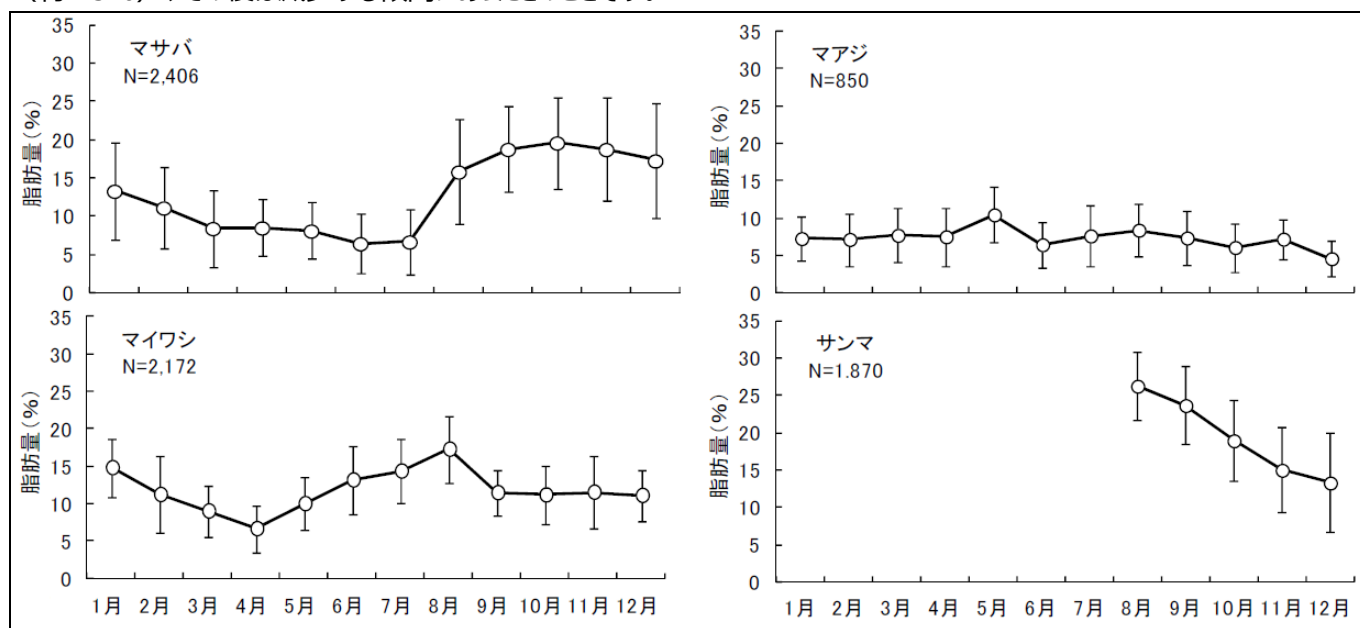
①長崎県沿岸のマアジ・マサバ

長崎県総合水産試験場によると、長崎県沿岸で漁獲されたマアジ肉中の粗脂肪含量は、冬に3%以下の低値を示し、夏に向けて上昇することです。この間、産卵期も含まれますが、マアジは他の魚類に見られるような産卵後の粗脂肪含量の極端な低下はみられず、夏に最も高い値（約10%）を示した後、秋になると徐々に低下し始めることです。一方、マサバはまったく逆の傾向を示し、長崎沿岸海域で漁獲されるマサバの粗脂肪含量は冬季に高く、夏季に低い値を示すことです。¹⁾

②千葉県銚子漁港で水揚げされたマサバ・ゴマサバ・マアジ・マイワシ・サンマ

千葉県水産総合研究センターによると、銚子漁港で水揚げされた多獲性魚類の脂肪量を調査したところ、まずマサバは8月から脂肪量が増加し、10月に最も高くなり（約20%）、その後は18%前後で推移し、1月から徐々に減少し、6月と7月に最も低くなったことです（約7%）。ゴマサバは8月に最も高く（約20%）、その後は13%前後で推移し、1月以降は5%前後で推移したとことです。マアジの脂肪量は年間を通じて約7%前後で脂肪量の変動は小さかったことと、

マイワシは8月に最も高くなり（約17%）、その後は11%前後で推移し、1月から徐々に減少し、6月には最も低くなったとのことです（約7%）。最後に、サンマは秋の印象が強いですが、漁期当初の8月に水揚げされたものが最も脂肪量が高く（約25%）、その後は減少する傾向にあったとのことです。²⁾

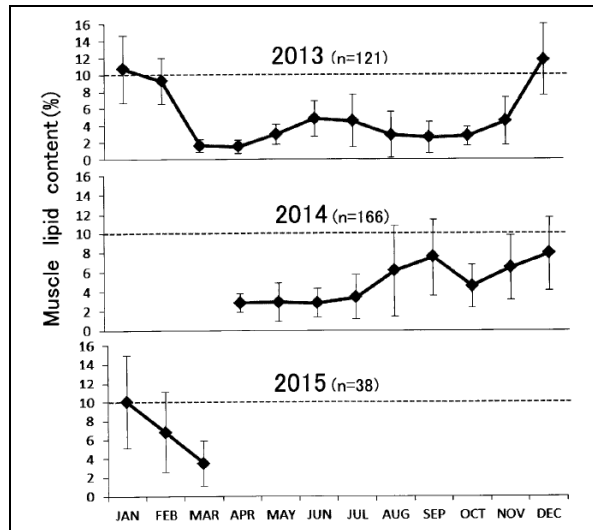


※千葉県水産総合研究センターでは、銚子漁港で水揚げされるマアジ、マサバ、ゴマサバ、マイワシ、サンマの脂肪量を定期的に測定し、その結果を千葉県のホームページに公開しています。詳しくは、下記アドレスにアクセスしてください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-suisan/suisan/suisan/takakuseigyo/index.html>

③三重県熊野灘産のゴマサバ

2013～2015年にまき網漁業によって漁獲された熊野灘産ゴマサバの脂肪含量の月別変化を調査したところ、2013年においては1～2月に10%前後の高い脂肪含量を示した後、3～4月には1%台にまで急減したとのことです。その後、夏季（6～7月）にやや増加したものの、おおむね秋季（10月）まで2%前後の低い値で推移し、12月に再び脂肪含量が急増して10%を上回ったとのことです。2014年4月～2015年3月の間においても、冬季（12～1月）に脂肪含量が増加する傾向が認められたとのことで、一般に魚は脂の乗っている時期が最も美味とされ、「旬」と考えられていることから、熊野灘産ゴマサバの旬は冬季（12～1月）であるとのことです。



(参考文献)

- 1) 長崎県総合水産試験場：マアジのおいしい食べ方と加工原料適性の関係
<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/topics/060223%20maajikakou/060223maajikakou2.pdf>
- 2) 千葉県水産総合研究センター，千葉県水産情報通信センター，千葉県農林水産技術会議：銚子漁港に水揚げされる多獲性魚類の脂肪量，漁海況旬報，No.24-17，2012
- 3) 井上美佐，岡田誠：熊野灘産ゴマサバにおける脂質含量の季節変化，三重県水産研究所研究報告，25，95-99，2016

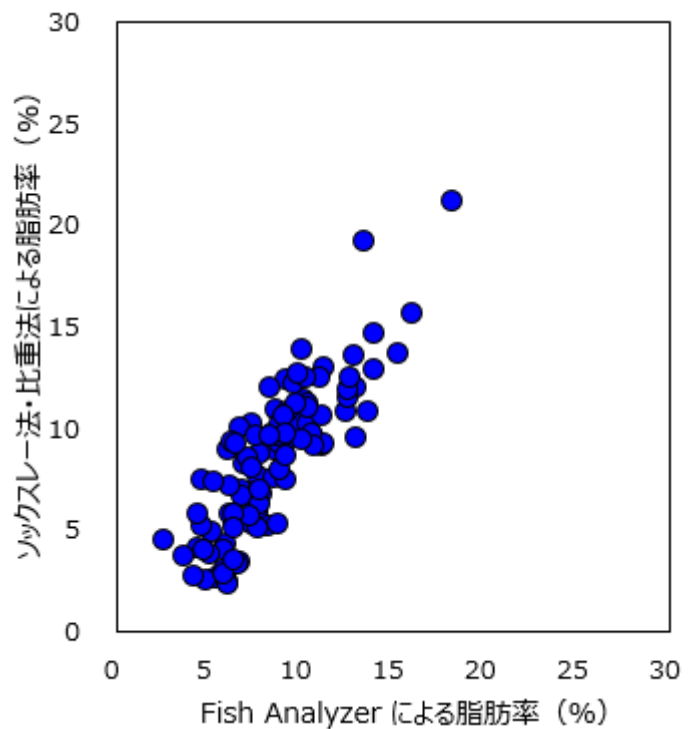
3 章 魚種毎の基本情報と測定方法について

(注意) 各魚種の脂肪率計算式は、基本情報の「魚の状態」で測定を行い、作成しました。この状態と異なる状態で測定を行った場合、結果に影響を与える可能性があります。例えば、ゴマサバの致死当日は強い硬直状態（A'）で測定を行いましたが、すでに解硬している場合は数値が低めに表示される可能性があります。必要に応じて、致死当日でも「水揚げ翌日²⁴」で測定を行ったり、またはその逆で測定を行ったりするなど、「魚の状態」と照らし合わせながら選択してください。

● Fish Analyzer™ 魚種 No.1 「マアジ」

<基本情報>



種類	マアジ（養殖含む）
場所	長崎県、千葉県、島根県
時期	春、夏、秋
データ数	104 例
尾叉長	平均 20.8±3.2cm 最小 16cm, 最大 30cm
重量	平均 121±40g 最小 52g, 最大 318g
脂質含量	
平均値	天然 7.6±3.1% 養殖 10.0±4.0%
25パーセンタイル値	天然 5%、養殖 10%
中央値	天然 8%、養殖 12%
75パーセンタイル値	天然 10%、養殖 14%
化学分析法との関係	重相関係数 R=0.83 推定誤差 S.E.E.=±2.1%
100kHz単相関係	r=0.7
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 B
その他	——



データ提供：長崎県総合水産試験場、千葉県水産総合研究センター、島根県水産技術センター

<測定方法>

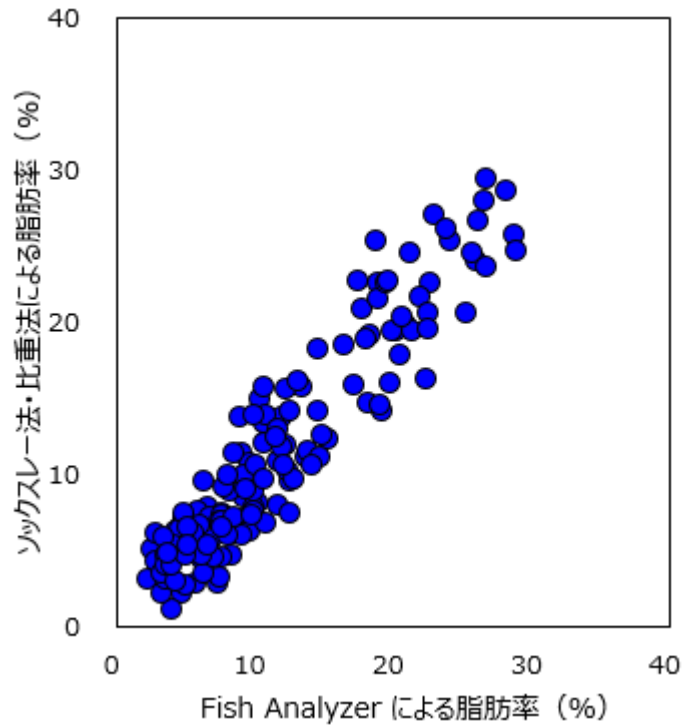
- ①アタッチメントを装着して測定を行ってください。
- ②第1背ビレと第2背ビレの間に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
<p>装着</p> 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.2 「マサバ」

<基本情報>


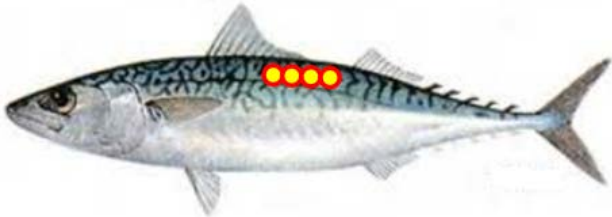
種類	マサバ
場所	千葉県
時期	春、夏、秋
データ数	150 例
尾叉長	平均 33.4±3.9cm 最小 25cm, 最大 41cm
重量	平均 471±171g 最小 171g, 最大 921g
脂質含量	
平均値	11.7±7.1%
25 パーセンタイル値	6%
中央値	10%
75 パーセンタイル値	16%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.94 推定誤差 S.E.E.=±2.5%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 B
その他	300g 以下は数値が高めに表示 される可能性があります。 強い硬直状態 (A') の場合は、 数値が高めに表示される可能性 があります。



データ提供：千葉県水産総合研究センター

<測定方法>

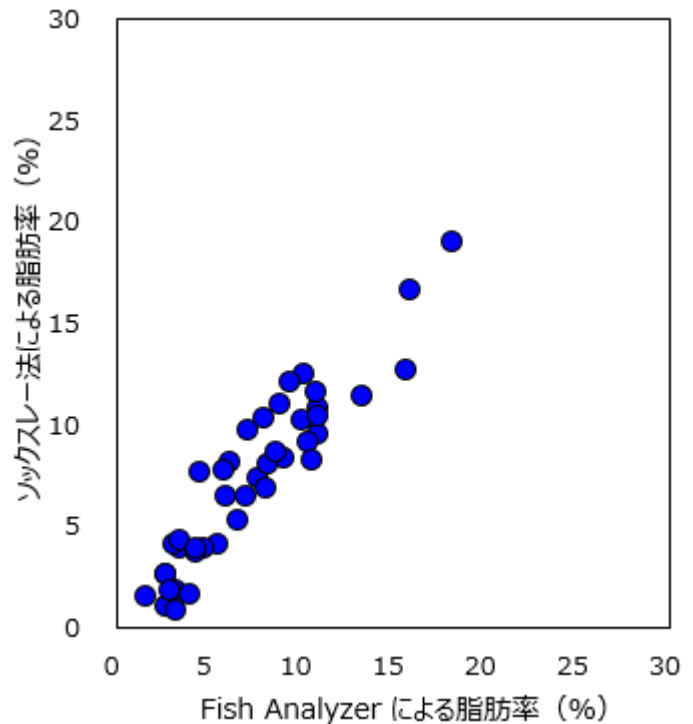
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背ビレの後端に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.3 「ゴマサバ」

<基本情報>



種類	ゴマサバ
場所	岩手県、千葉県
時期	春、夏
データ数	42 例
尾叉長	平均 36.8±2.1cm 最小 31cm, 最大 43cm
重量	平均 714±132g 最小 449g, 最大 1,215g
脂質含量	
平均値	7.4±4.3%
25 パーセンタイル値	4%
中央値	8%
75 パーセンタイル値	10%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.93 推定誤差 S.E.E.=±1.6%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	当日平均 A'、翌日平均 B
その他	300g 以下は数値が高めに表示 される可能性があります。



農林水産技術会議「食料地域再生のための先端技術展開事業」にてデータ取得
データ提供：千葉県水産総合研究センター、館山水産事務所

<測定方法>

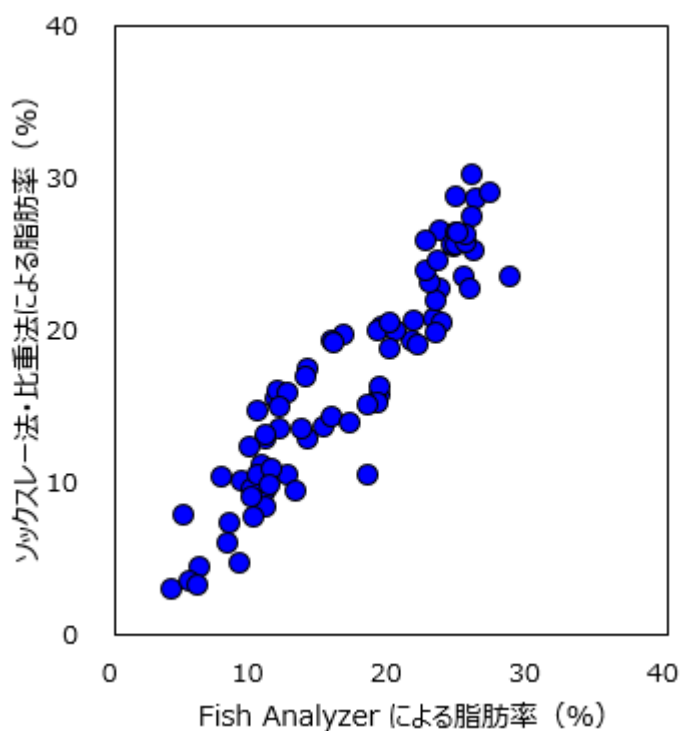
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背ビレの後端に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.4 「マイワシ」

<基本情報>

種類	マイワシ
場所	千葉県
時期	夏、冬
データ数	81 例
被鱗体長	平均 16.8±7.2cm 最小 11cm, 最大 22cm
重量	平均 73±46g 最小 17g, 最大 156g
脂質含量	
平均値	16.8±6.7%
25 パーセンタイル値	11%
中央値	16%
75 パーセンタイル値	23%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.93 推定誤差 S.E.E.=±2.6%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 B
その他	—



データ提供：千葉県水産総合研究センター

<測定方法>

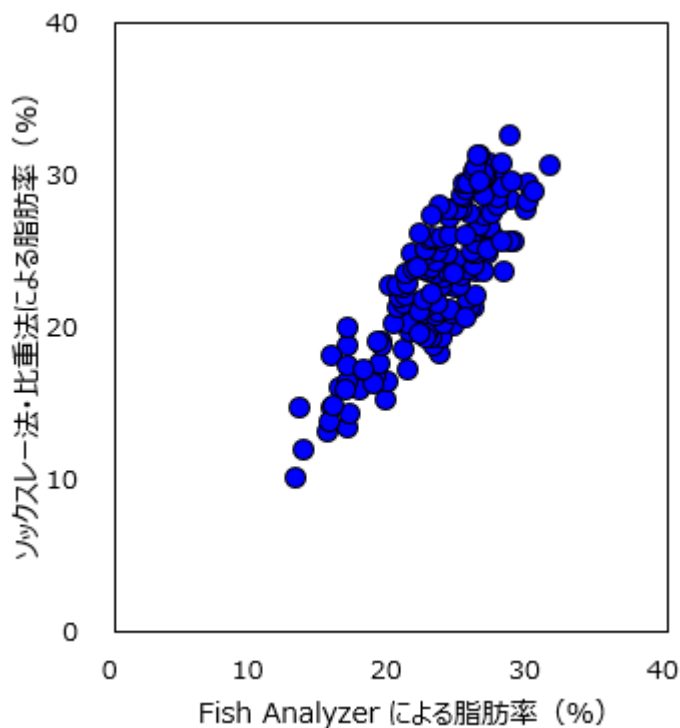
- ①アタッチメントを装着して測定を行ってください。
- ②背ビレの中心に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
<p>装着</p> 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.5 「サンマ」

<基本情報>



種類	サンマ
場所	千葉県
時期	夏、秋
データ数	156 例
肉体長	平均 31.2±1.3cm 最小 26cm, 最大 35cm
重量	平均 155±23g 最小 78g, 最大 212g
脂質含量	
平均値	23.4±4.7%
25 パーセンタイル値	20%
中央値	24%
75 パーセンタイル値	27%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.84 推定誤差 S.E.E.=±2.5%
100kHz 単相関	r=0.7
魚の状態	平均 B
その他	致死翌日から数日経過したデータにて計算式を作成しています。



データ提供：千葉県水産総合研究センター

<測定方法>

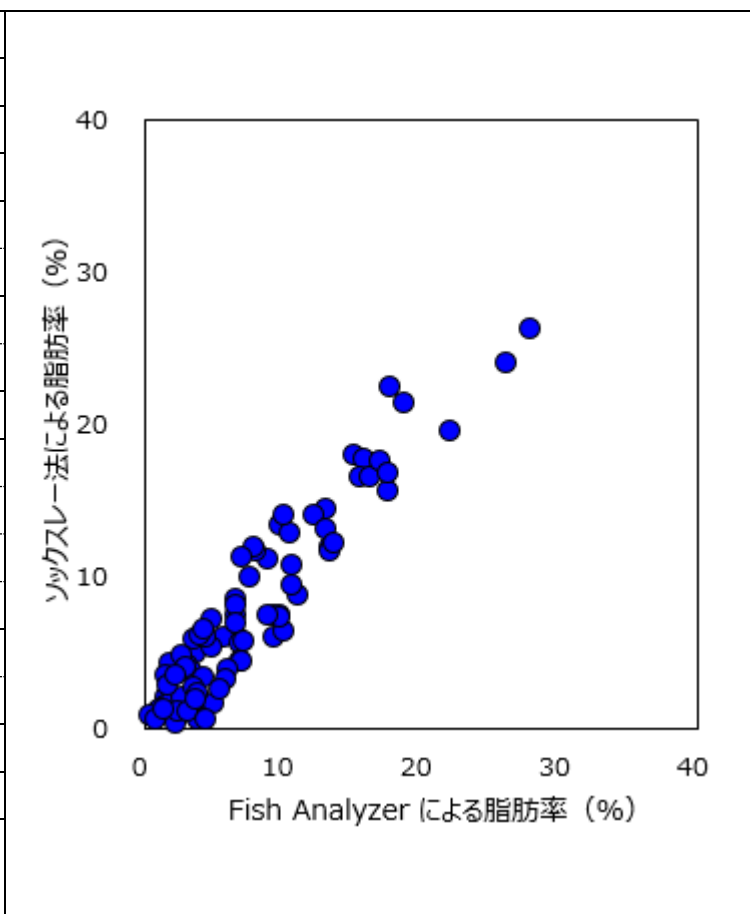
- ①アタッチメントを装着して測定を行ってください。
- ②腹ビレの中心に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
<p>装着</p> 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.6 「ブリ」

<基本情報>


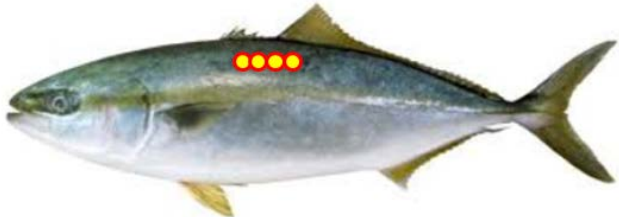
種類	ブリ（養殖含む）
場所	長崎県、岩手県
時期	春、夏、秋
データ数	91 例
尾叉長	平均 63.9±9.9cm 最小 44cm, 最大 86cm
重量	平均 4.4±2.2kg 最小 1.4kg, 最大 11,2kg
脂質含量	
平均値	7.5±6.2%
25 パーセンタイル値	2%
中央値	6%
75 パーセンタイル値	12%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.94 推定誤差 S.E.E.=±2.0%
100kHz 単相関	r=0.9
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 A'
その他	—



データ提供：長崎県総合水産試験場、岩手県水産技術センター

<測定方法>

- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②第 1 背ビレと第 2 背ビレの間に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

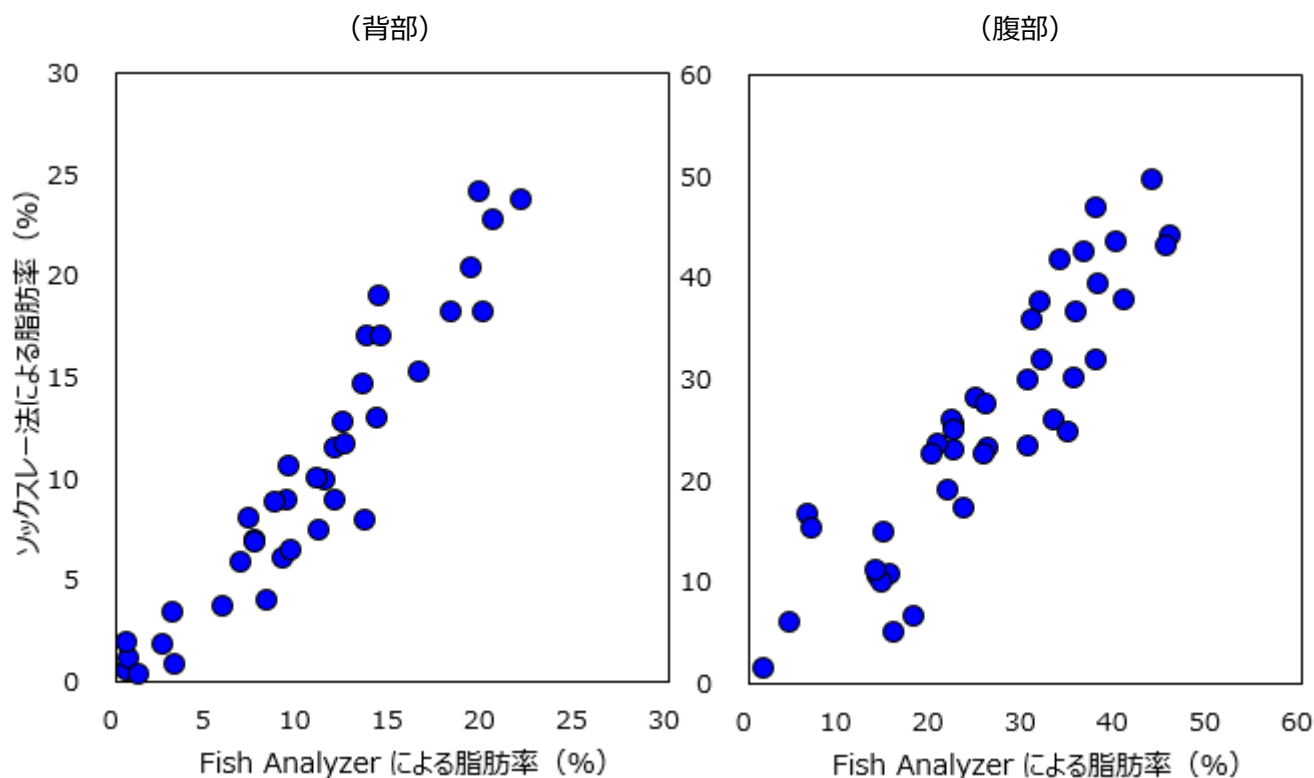
アタッチメント	測定位置
不要 	

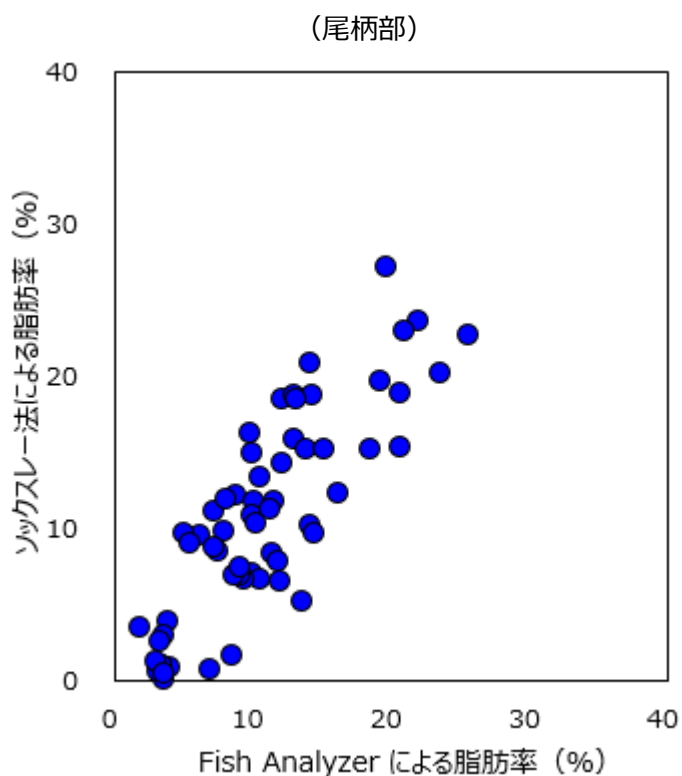
● Fish Analyzer™ 魚種 No.7 「マグロ」

<基本情報>

種類	クロマグロ (養殖)	尾叉長 (尾柄部)	平均 127.9±29.9cm
場所	長崎県		最小 81cm, 最大 177cm
時期	夏、秋、冬	重量 (背・腹部)	平均 28.6±14.7kg
データ数	背・腹部 42 例, 尾部 61 例		最小 10.3kg, 最大 60.9kg
尾叉長 (背・腹部)	平均 106.2±16.5cm 最小 81cm, 最大 136cm	重量 (尾柄部)	平均 44.2±22.8kg 最小 10.3kg, 最大 87.4kg

	背部	腹部	尾柄部 (腹部側)
脂質含量			
平均値	平均 9.4±7.0%	平均 26.0±12.6%	平均 10.8±6.8%
25 パーセンタイル値	4%	17%	7%
中央値	9%	25%	10%
75 パーセンタイル値	14%	36%	15%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.95 推定誤差 S.E.E.=±2.3%	重相関係数 R=0.90 推定誤差 S.E.E.=±5.4%	重相関係数 R=0.83 推定誤差 S.E.E.=±3.8%
100kHz 単相関	r=0.9	r=0.8	r=0.8
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 A	当日平均 A、翌日平均 A	当日平均 A、翌日平均 A
その他	大型魚は含まれていません。	測定位置により脂肪率が大きく 変動する可能性があります。	——





データ提供：長崎県総合水産試験場
 双日ツナファーム鷹島株式会社


<測定方法>

アタッチメントを外して測定を行ってください。

(背部) 胸ビレの後端に電極の先端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

(腹部) 胸ビレの後端に電極の先端を合わせ、腹ビレの付け根と側線のちょうど中間の場所に電極を当ててください。

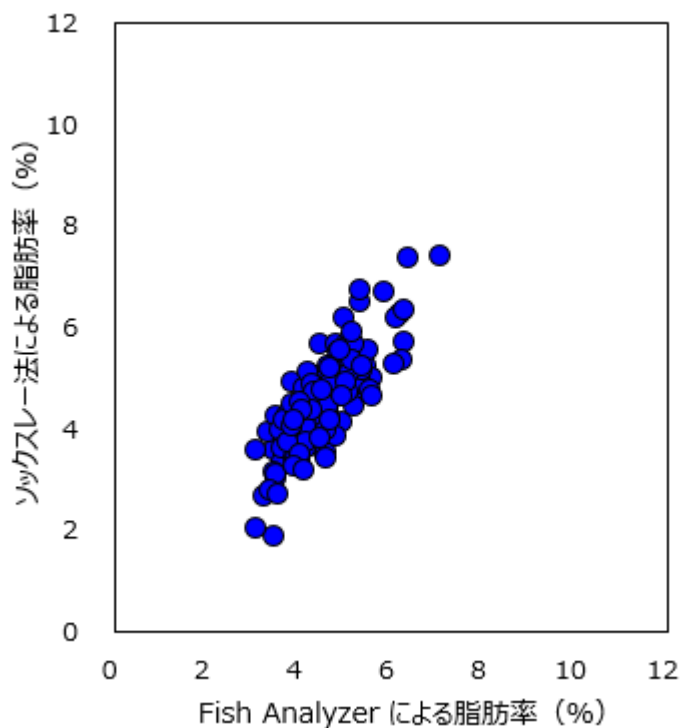
(尾柄部) 臀ビレの後端に電極の先端を合わせ、側線より少し下の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
<p>不要</p> 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.8 「マダイ」

<基本情報>



種類	マダイ (養殖含む)
場所	三重県
時期	夏、冬
データ数	108 例
尾叉長	平均 36.8±1.7cm 最小 29.5cm, 最大 43.0cm
重量	平均 1,059±150g 最小 520g, 最大 1,582g
脂質含量	
平均値	4.5±1.0%
25 パーセンタイル値	3%
中央値	4%
75 パーセンタイル値	5%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.81 推定誤差 S.E.E.=±0.6%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 A'
その他	—



データ提供：三重県水産研究所

<測定方法>

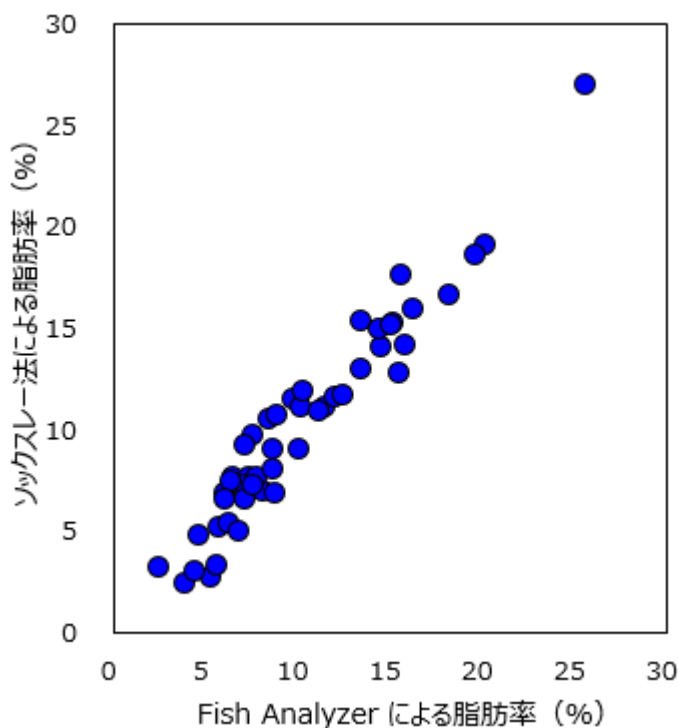
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背ビレの先端に電極の先端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.9 「キンメダイ」

<基本情報>



種類	キンメダイ
場所	千葉県
時期	秋
データ数	48 例
尾叉長	平均 29.5±3.9cm 最小 22cm, 最大 37cm
重量	平均 619±275g 最小 241g, 最大 1,166g
脂質含量	
平均値	10.2±5.0%
25 パーセンタイル値	7%
中央値	10%
75 パーセンタイル値	13%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.97 推定誤差 S.E.E.=±1.3%
100kHz 単相関	r=0.9
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 A
その他	300g 以下は数値が高めに表示 される可能性があります。



データ提供：千葉県水産総合研究センター

<測定方法>

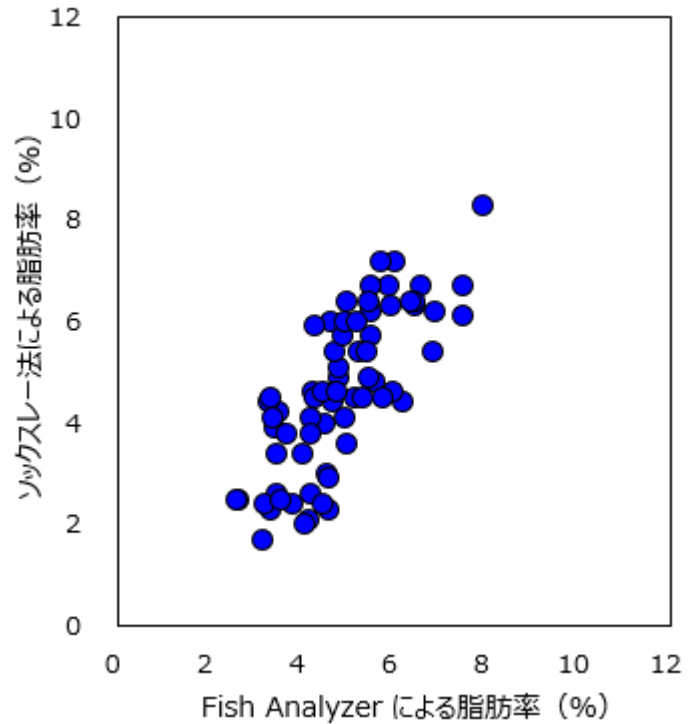
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背ビレの中心に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No10 「カツオ」

<基本情報>



種類	カツオ
場所	岩手県
時期	秋
データ数	69 例
尾叉長	平均 52.2±1.4cm 最小 48cm, 最大 55cm
重量	平均 3,069±282g 最小 2,529g, 最大 3,667g
脂質含量	
平均値	4.9±1.6%
25 パーセンタイル値	4%
中央値	5%
75 パーセンタイル値	6%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.76 推定誤差 S.E.E.=±1.0%
100kHz 単相関	r=0.6
魚の状態	平均 B
その他	致死翌日から数日経過したデータにて計算式を作成しています。 春先は数値が高めに表示される可能性があります。



データ提供：岩手県水産技術センター

<測定方法>

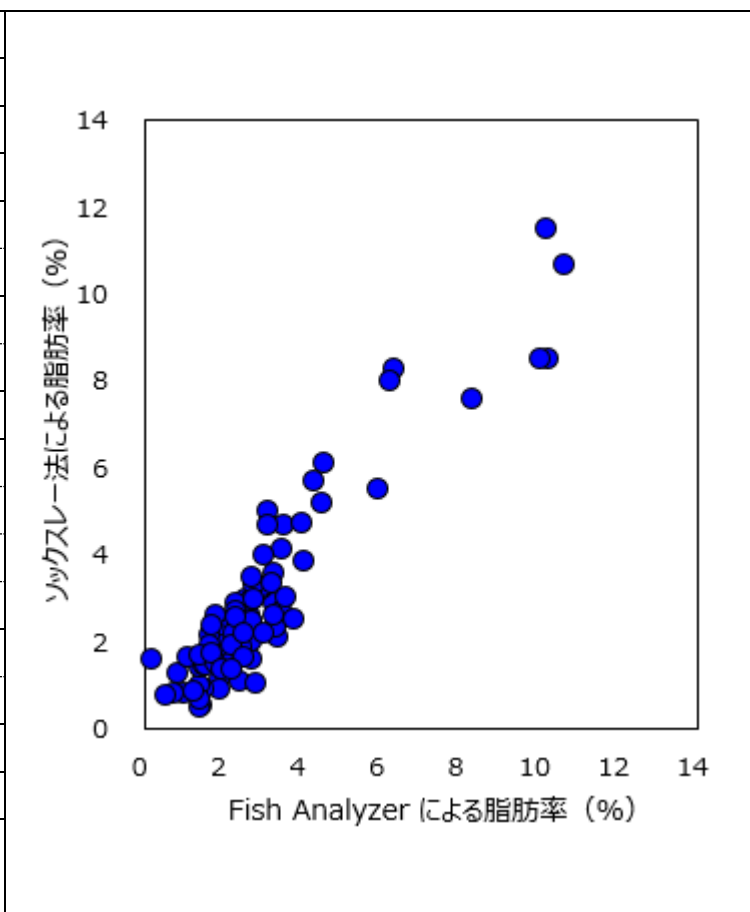
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②第1背ビレと第2背ビレの間に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.11 「サケ」

<基本情報>

種類	シロザケ
場所	北海道、岩手県
時期	春、夏、秋
データ数	91 例
尾叉長	平均 66.7±5.3cm 最小 54cm, 最大 79cm
重量	平均 3,809±772g 最小 2,123g, 最大 5,533g
脂質含量	
平均値	2.9±2.0%
25 パーセンタイル値	1%
中央値	2%
75 パーセンタイル値	3%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.93 推定誤差 S.E.E.=±0.8%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	当日平均 B、翌日平均 C
その他	岩手県ではギンケのほかに A ブナ ～C ブナを測定しました。



データ提供：北海道立工業技術センター、岩手県水産技術センター、網走水産試験場、釧路水産試験場
根室市水産経済部水産加工振興センター

<測定方法>

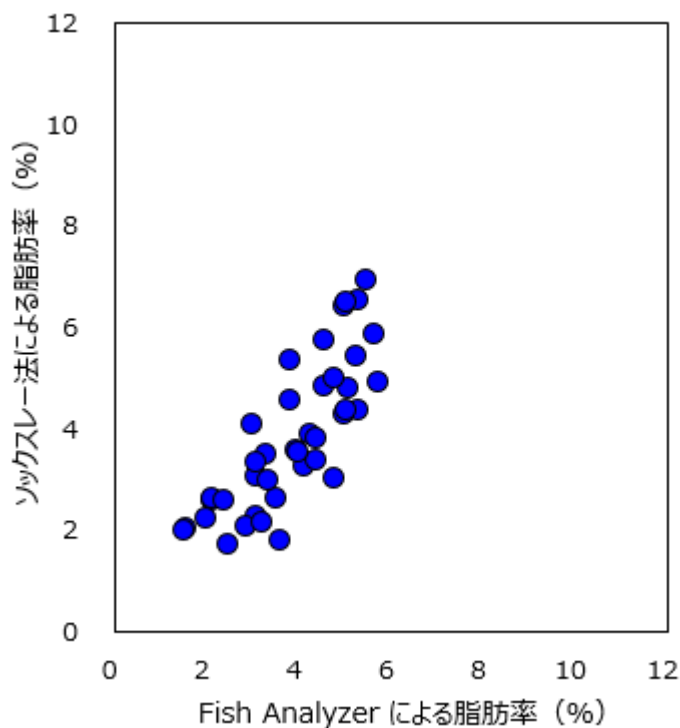
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背びれの中心に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.12 「ニジマス」

<基本情報>

種類	3 倍体ニジマス (淡水)
場所	静岡県
時期	春、夏
データ数	40 例
尾叉長	平均 47.7±7.6cm 最小 33cm, 最大 62cm
重量	平均 2,334±1,109g 最小 655g, 最大 5,556g
脂質含量	
平均値	3.9±1.5%
25 パーセンタイル値	3%
中央値	4%
75 パーセンタイル値	5%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.81 推定誤差 S.E.E.=±0.9%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	当日平均 A'、翌日平均 A
その他	—



静岡県水産技術研究所富士養鱒場データから大和製衡作成

<測定方法>

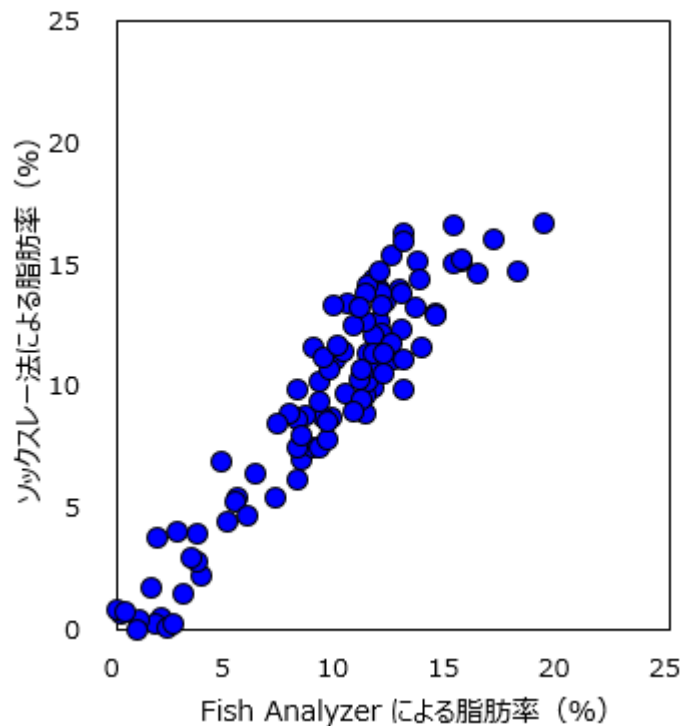
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背ビレの先端に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.13 「サワラ」

<基本情報>



種類	サワラ
場所	岩手県、山形県、三重県
時期	夏、秋、冬
データ数	103 例
尾叉長	平均 69.1±8.6cm 最小 33cm, 最大 62cm
重量	平均 2,001±1,021g 最小 332g, 最大 5,953g
脂質含量	
平均値	9.5±4.6%
25 パーセンタイル値	7%
中央値	11%
75 パーセンタイル値	13%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.94 推定誤差 S.E.E.=±1.6%
100kHz 単相関	r=0.9
魚の状態	当日平均 A'、翌日平均 A
その他	サゴシは含まれていません。



データ提供：岩手県水産技術センター、山形県水産試験場、三重県水産研究所

<測定方法>

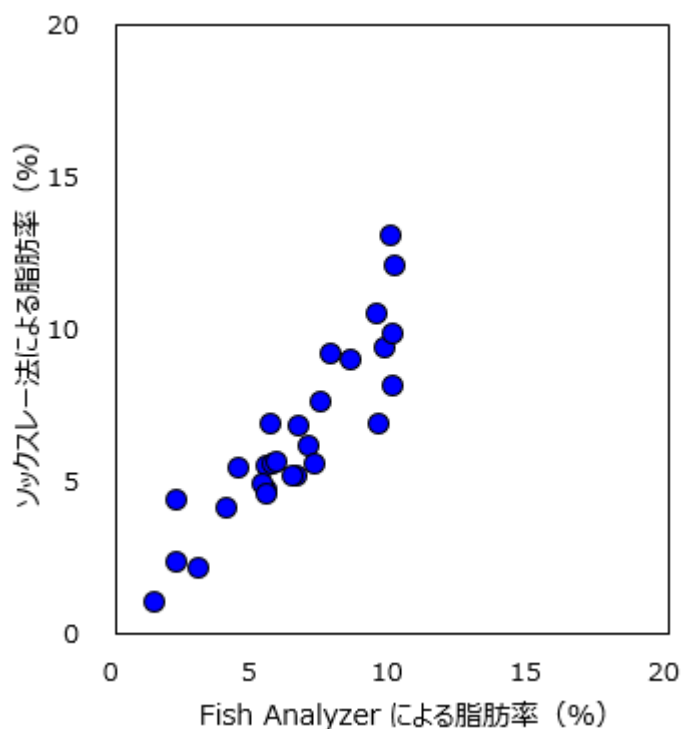
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②第 2 背ビレの先端に電極の後端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.14 「メダイ」

<基本情報>



種類	メダイ
場所	長崎県
時期	夏、秋
データ数	28 例
尾叉長	平均 66.5±7.8cm 最小 52cm, 最大 82cm
重量	平均 5,513±2,066g 最小 2,250g, 最大 9,164g
脂質含量	
平均値	6.5±2.9%
25 パーセンタイル値	5%
中央値	6%
75 パーセンタイル値	8%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.89 推定誤差 S.E.E.=±1.3%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	平均 A
その他	致死翌日のデータにて計算式を作成しています。



データ提供：長崎県総合水産試験場

<測定方法>

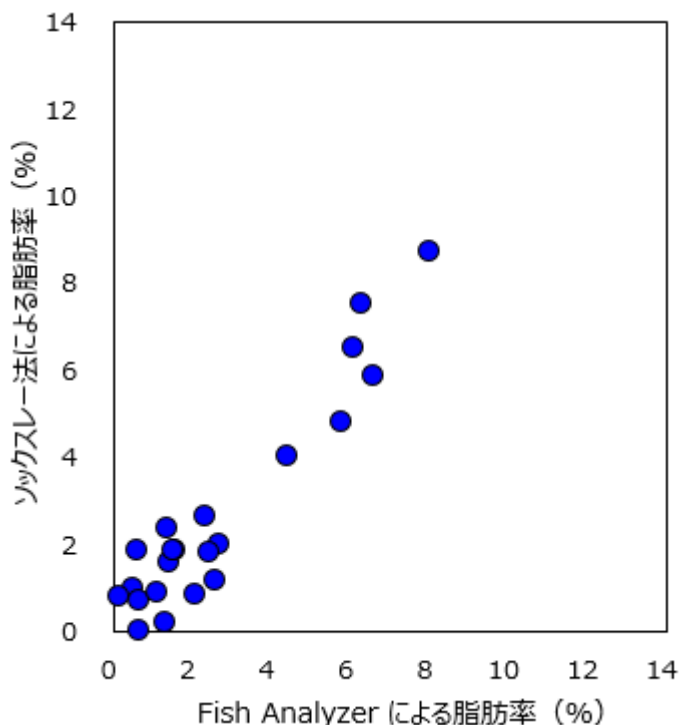
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背ビレの先端に電極の先端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.15 「スズキ」

<基本情報>

種類	スズキ
場所	兵庫県、三重県
時期	春、夏、秋
データ数	22 例
尾叉長	平均 63.8±7.5cm 最小 53cm, 最大 78cm
重量	平均 2,504±1,086g 最小 1,300g, 最大 4,820g
脂質含量	
平均値	2.7±2.3%
25 パーセンタイル値	1%
中央値	2%
75 パーセンタイル値	4%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.95 推定誤差 S.E.E.=±0.8%
100kHz 単相関	r=0.9
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 A'
その他	致死翌日でも硬直が進んでない場合は、数値が低めに表示される可能性があります。



データ提供：兵庫県立農林水産技術総合センター、三重県水産研究所

<測定方法>

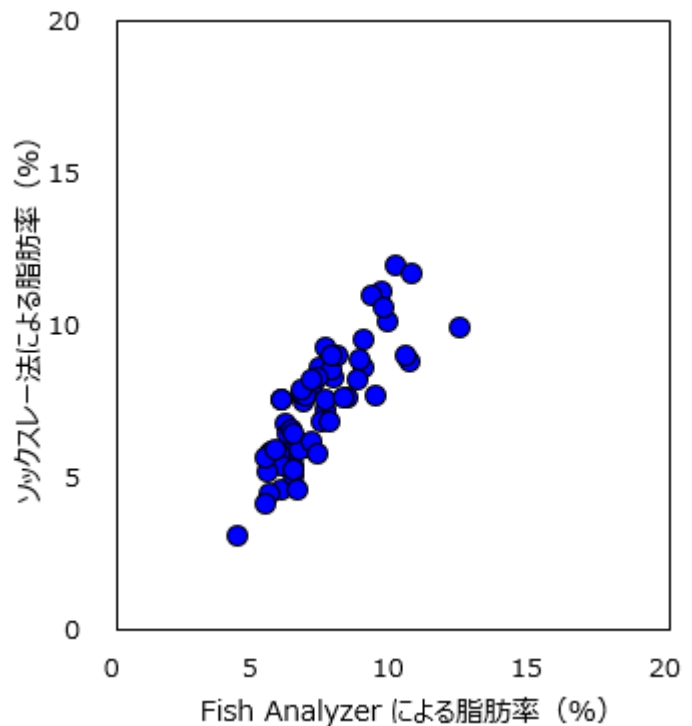
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②第 1 背ビレの後端に電極の後端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.16 「ハタハタ」

<基本情報>


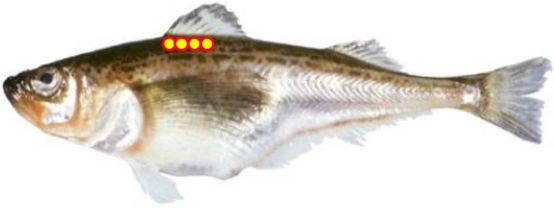
種類	ハタハタ
場所	兵庫県、山形県
時期	秋、冬
データ数	59 例
尾叉長	平均 19.7±1.6cm 最小 17cm, 最大 23cm
重量	平均 104.5±21.9g 最小 68g, 最大 149g
脂質含量	
平均値	7.4±2.0%
25 パーセンタイル値	6%
中央値	8%
75 パーセンタイル値	9%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.83 推定誤差 S.E.E.=±1.1%
100kHz 単相関	r=0.7
魚の状態	平均 B
その他	致死翌日から数日経過したデータにて計算式を作成しています。



データ提供：兵庫県立農林水産技術総合センター、山形県水産試験場

<測定方法>

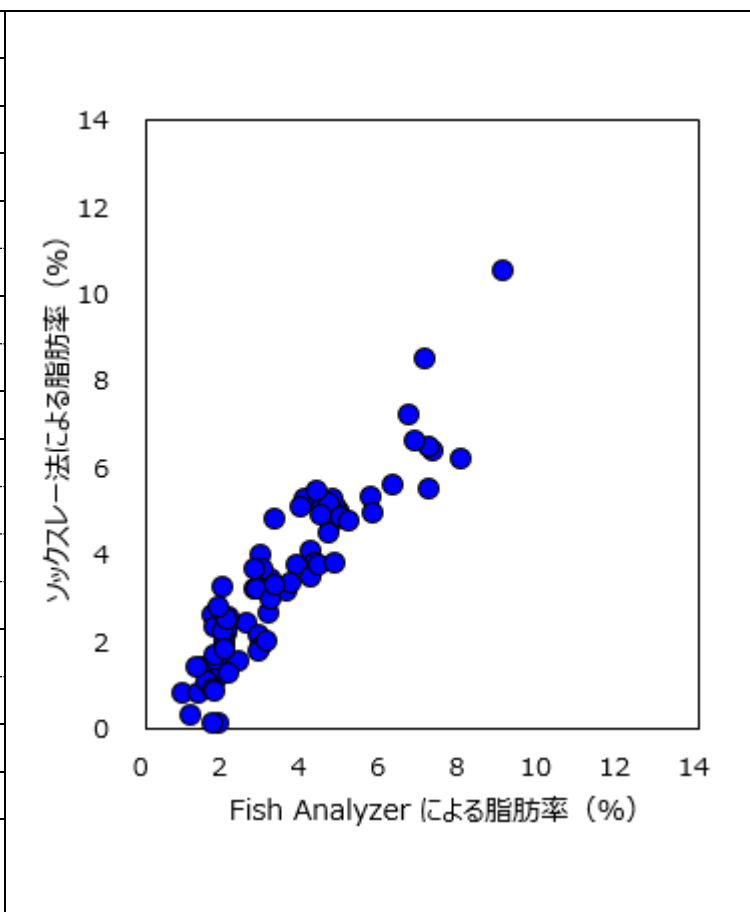
- ①アタッチメントを装着して測定を行ってください。
- ②背ビレの先端に電極の先端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
<p>装着</p> 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.17 「マハタ」

<基本情報>



種類	マハタ
場所	三重県
時期	春、秋、冬
データ数	76 例
尾叉長	平均 42.2±2.6cm
	最小 37cm, 最大 47cm
重量	平均 1,124±267g
	最小 525g, 最大 1,771g
脂質含量	
平均値	3.4±2.0%
25 パーセンタイル値	2%
中央値	3%
75 パーセンタイル値	5%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.92
	推定誤差 S.E.E.=±0.8%
100kHz 単相関	r=0.9
魚の状態	当日平均 A、翌日平均 A'
その他	—



データ提供：三重県水産研究所

<測定方法>

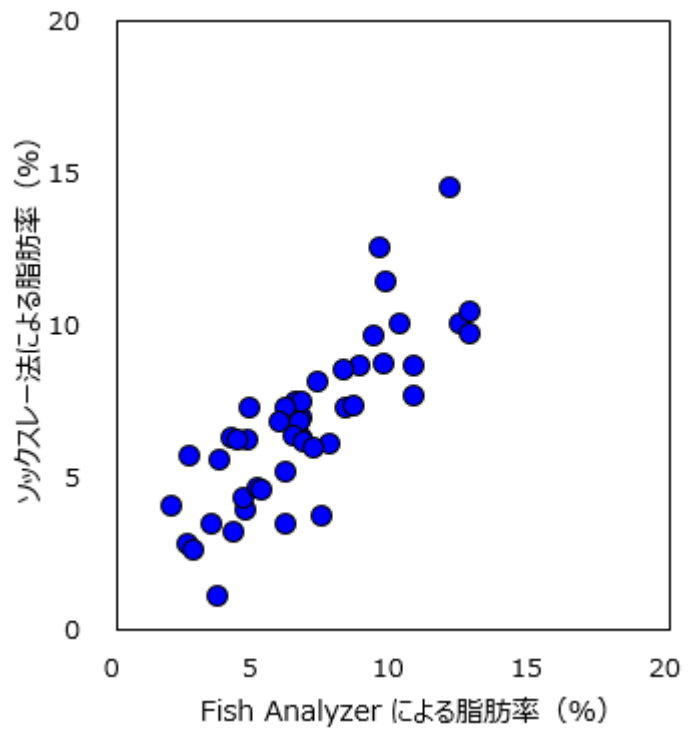
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②背ビレの先端に電極の先端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.18 「ヒラソウダ」

<基本情報>


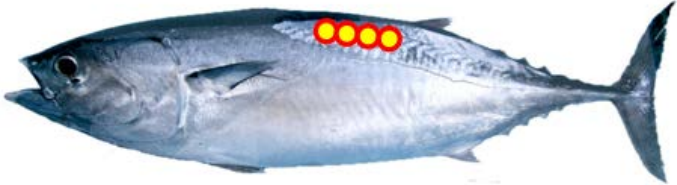
種類	ヒラソウダ
場所	三重県
時期	冬
データ数	46 例
尾叉長	平均 37.1±2.6cm 最小 33cm, 最大 43cm
重量	平均 913±217g 最小 587g, 最大 1,481g
脂質含量	
平均値	6.8±2.7%
25 パーセンタイル値	5%
中央値	7%
75 パーセンタイル値	9%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.82 推定誤差 S.E.E.=±1.6%
100kHz 単相関	r=0.8
魚の状態	当日平均 A'、翌日平均 A
その他	—



データ提供：三重県水産研究所

<測定方法>

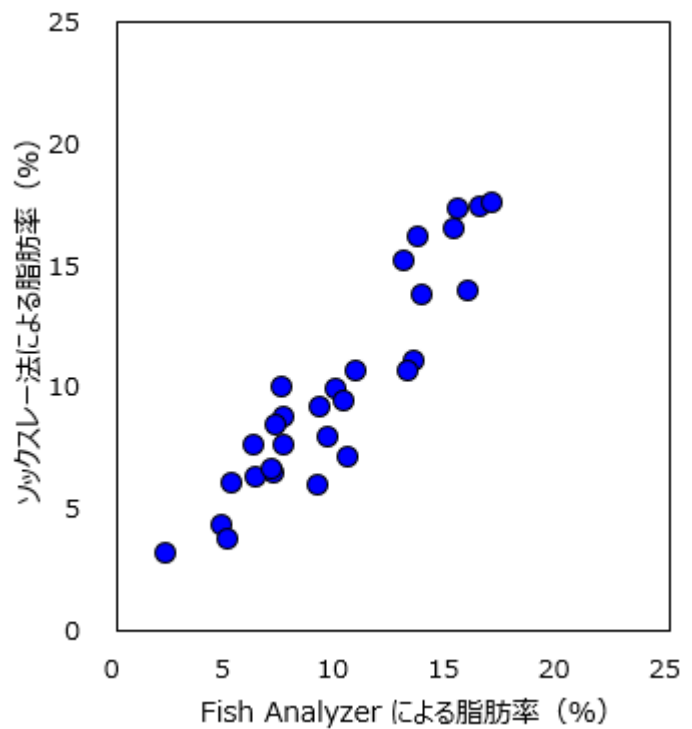
- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②第 1 背ビレと第 2 背ビレの間に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.19 「アナゴ」

<基本情報>



種類	アナゴ
場所	長崎県
時期	春、夏
データ数	29 例
尾叉長	平均 63.2±8.8cm 最小 38cm, 最大 78cm
重量	平均 426±161g 最小 72g, 最大 780g
脂質含量	
平均値	10.0±4.3%
25 パーセンタイル値	7%
中央値	9%
75 パーセンタイル値	14%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.93 推定誤差 S.E.E.=±1.6%
100kHz 単相関	r=0.3
魚の状態	平均 A
その他	致死当日のデータにて計算式を作成しています。



データ提供：長崎県総合水産試験場

<測定方法>

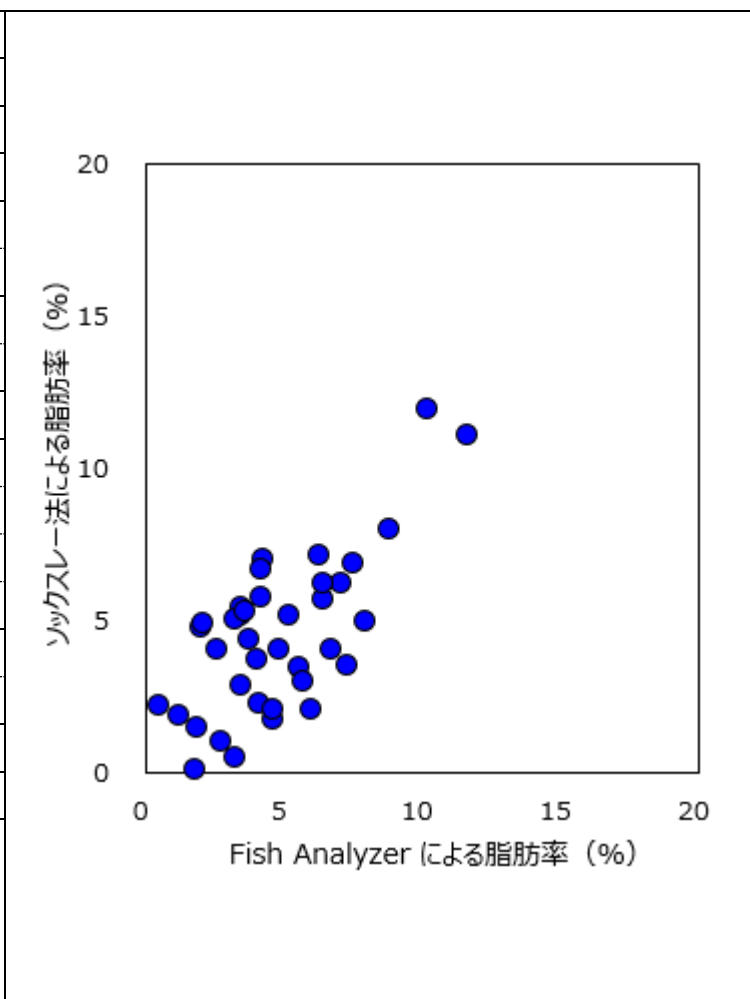
- ①アタッチメントを装着して測定を行ってください。
- ②肛門の位置に電極の先端を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。
- ③魚体はまっすぐ伸ばしてください。

アタッチメント	測定位置
<p>装着</p> 	

● Fish Analyzer™ 魚種 No.20 「マルアジ」

<基本情報>


種類	マルアジ
場所	和歌山県
時期	春、夏、秋、冬
データ数	43 例
尾叉長	平均 26.2±19.4cm 最小 22cm, 最大 29cm
重量	平均 250±50g 最小 144g, 最大 330g
脂質含量	
平均値	3.9±3.3%
25 パーセンタイル値	2%
中央値	4%
75 パーセンタイル値	6%
化学分析法 との関係	重相関係数 R=0.75 推定誤差 S.E.E.=±1.8%
100kHz 単相関	r=0.4
魚の状態	平均 B
その他	致死翌日までのデータにて計算式を作成しています。 150g 以下は高めに表示される可能性があります。



データ提供：和歌山県水産試験場、兵庫県立農林水産技術総合センター

<測定方法>

- ①アタッチメントを外して測定を行ってください。
- ②第1背ビレと第2背ビレの間に電極の中心を合わせ、側線より少し上の場所に電極を当ててください。

アタッチメント	測定位置
不要 	

4-1. 検量線モードでの脂肪率の判定基準について

検量線モードとは、①登録されていない魚種の脂乗りを知りたい、②背部以外の脂乗りを知りたい、③独自で脂乗り評価を行いたい、といった場合など、実測値での脂乗り評価を行うモードで、ここでは脂肪率ではなく100kHzのインピーダンス値が表示されます。「3章 魚種毎の基本情報と測定方法について」で「100kHz単相関」を記載しましたが、これはソックスレー法または比重法と100kHzインピーダンスの相関関係を示したもので、多くの魚種で100kHzのインピーダンスがこれらの脂質含量に対して高い相関係数を示します。また、ソックスレー法または比重法が行える環境があれば、オリジナルの計算式を作成することができます。以下の手順をご覧ください、この検量線モードやオリジナル計算式を入力することができる「魚A」「魚B」「魚C」を有効にご活用ください。

尚、検量線モードで思ったような結果が出ない場合や対象魚種以外で測定される場合は、弊社ホームページの「製品問合せ」までお問い合わせください。

手順① 測定条件を決める

検量線モードは単周波数での測定となりますので、鮮度変化の影響をまともに受けてしまいます。そのため、測定条件を合わせる事が重要となります。少なくとも以下の内容については、あらかじめ決めておいてください。

1. 保存条件（氷蔵保存、冷蔵保存など ※少なくとも魚体温度は同じになるようにしてください）
2. 魚の状態（活魚、致死〇時間後の魚、魚の状態「B」の魚など）

手順② 測定位置を決める

Fish Analyzer™の魚種の多くは背部で測定を行っていますが、検量線モードでは背部以外の測定を行っていただいても構いません。例えば、脂が乗りやすい腹部や、「1-1. Fish Analyzer™で脂乗りが良いと判定された魚が美味しいと言われる理由」でも記載しましたが、Fish Analyzer™が表示する脂肪率は皮下脂肪を反映しやすいと言われておりますので、皮下脂肪の付きやすい位置など、測定される魚の特徴を反映しやすい位置を選択してください。尚、魚体の厚みが3cm以下の場合、アタッチメントを装着して測定を行ってください。

手順③ 測定して判定基準を決める

測定条件と測定位置を決めることで、初めて検量線モードでの測定を行うことができます。検量線モードは1Ω単位でインピーダンスが表示されますので、複数回の測定を行った場合、数Ωのバラツキが見られる可能性があります。その魚の数値の決定については、測定回数2～3回の平均値を採用されることをお勧めします。判定基準については、「2-3-2. 脂乗りの判定基準となる統計情報について」を参考にしてください。

手順④ ソックスレー法または比重法で脂質含量を測定する ※オリジナル計算式作成時のみ

オリジナルの計算式を作成する場合、検量線モードでの測定後にソックスレー法または比重法で脂質含量を測定します。検体の目安として、少なくとも20検体以上をお勧めしておりますが、検体数が多いほど信頼性も高くなります。ソックスレー法の分析について、小型魚はフィレー（頭、背骨、内臓は除く ※皮あり）、大型魚はインピーダンスを測定した部位のブロック（100g程度 ※皮あり）を分析されることをお勧めします。

4-2. オリジナル計算式作成のための回帰分析について

Fish Analyzer™の魚種の中に「魚A」「魚B」「魚C」の3つが設けられていますが、これらの魚種は検量線モードで測定したデータをもとに、オリジナルの計算式にて脂肪率を表示するための魚種です。尚、オリジナルの計算式を作成するには、ソックスレー法または比重法が行える環境が必要となります。

オリジナル計算式の作成は、まず上記①～③の手順で測定を行い、その後手順④のソックスレー法または比重法で脂質含量を測定します。ある程度データが揃ったら、ソックスレー法または比重法で測定した脂質含量を従属変数、検量線モードで測定したインピーダンスを独立変数として単回帰分析を行い、「傾き」と「切片」を算出します。この傾き（カタムキ）と切片（セツペン）を魚種A～Cのいずれかに入力することで、オリジナル計算式による脂肪率を表示することができます。

●単回帰分析

単回帰分析とは、2つの要因 $x \cdot y$ の因果関係を回帰式「 $y=ax+b$ 」にて表現する分析方法で、 y は脂肪率、 x はインピーダンス値、 a と b がそれぞれ傾きと切片になります。

Microsoft Excel を用いた場合、傾きは関数名「SLOPE」を入力した上、（ ）でまず実脂肪量のデータ範囲を選択し、カンマを入れてインピーダンス値のデータ範囲を選択すれば計算することができます。切片も同様に、関数名「INTERCEPT」を入力した上、（ ）で実脂肪量のデータ範囲を選択し、カンマを入れてインピーダンス値のデータ範囲を選択すれば計算することができます。最低でも傾きは小数点第4位まで、切片は小数点第1位まで入力してください。

	関数名	実脂肪率 データ範囲	インピーダンス値 データ範囲
1			
2	カタムキ	0.0865	5.9
3	セツペン	-4.8	6.0
4			6.0
5			6.0
6			5.7
7			4.1
8			1.2
9			1.8
10			5.8
11			10.8
12			12.9
13			11.7
14			21.4
15			17.2
16			18.1
17			12.0
18			4.2
19			5.4
20			7.2
21			4.3

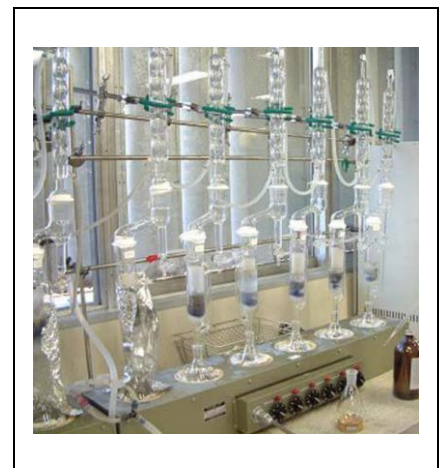
※Microsoft Excel を用いた「平均値」「パーセンタイル値」「単回帰分析」の計算フォーマットは、弊社ホームページ上に添付していますので、必要に応じてダウンロードしてください（ファイル名：Fish Analyzer 計算フォーマット.xls）。

www.yamato-scale.co.jp/products/detail/id:294

（参考）ソックスレー法・比重法について

ソックスレー法は化学分析法のひとつで、一般的に脂肪分を抽出する場合にエーテルを用いた抽出法が利用されます。脂肪は水には溶けず、エーテルなどの有機溶媒に溶ける性質があります。この性質を利用して、まずミンチ状にした魚体をエーテルで処理し、魚体内の脂肪分をエーテル内に溶解させます。次に、脂肪分を含む溶液をろ過させ、溶液のみを回収し、回収した溶液を加熱させます。溶液を加熱するとエーテルは蒸発し、溶解していた脂肪分のみが残りますので、最後に残留物である脂肪の重さを測定すれば実脂肪量を導くことができます。

比重法は、魚の空中の重さと水中の重さを差し引いた値で割ることで比重を計算し、この比重より脂肪分を導く方法ですが、この比重法を行う場合でも初段階ではソックスレー法は必要となります。



5-1. 魚の新しい鮮度指標「魚の状態」について

Fish Analyzer™ PRO では、脂肪率の横にインピーダンスより導き出した魚の新しい鮮度指標、「魚の状態」を5段階で表示しています。この技術資料でも頻繁に出ています「インピーダンス」ですが、そもそもインピーダンスは抵抗成分であるレジスタンスと容量成分であるリアクタンスの合成成分です。実は、インピーダンスを用いた食品解析は古くから実施されていた手法であり、その代表が縦軸にリアクタンスをとり、横軸にレジスタンスをとり、測定周波数に応じてプロットした Cole-Cole プロットと呼ばれる解析方法です。一方、Fish Analyzer™ PRO はレジスタンスとリアクタンスを個別に測定していませんので、この場合は低い周波数帯域のインピーダンスと高い周波数帯域のインピーダンスの両方を用いて解析する必要があります。

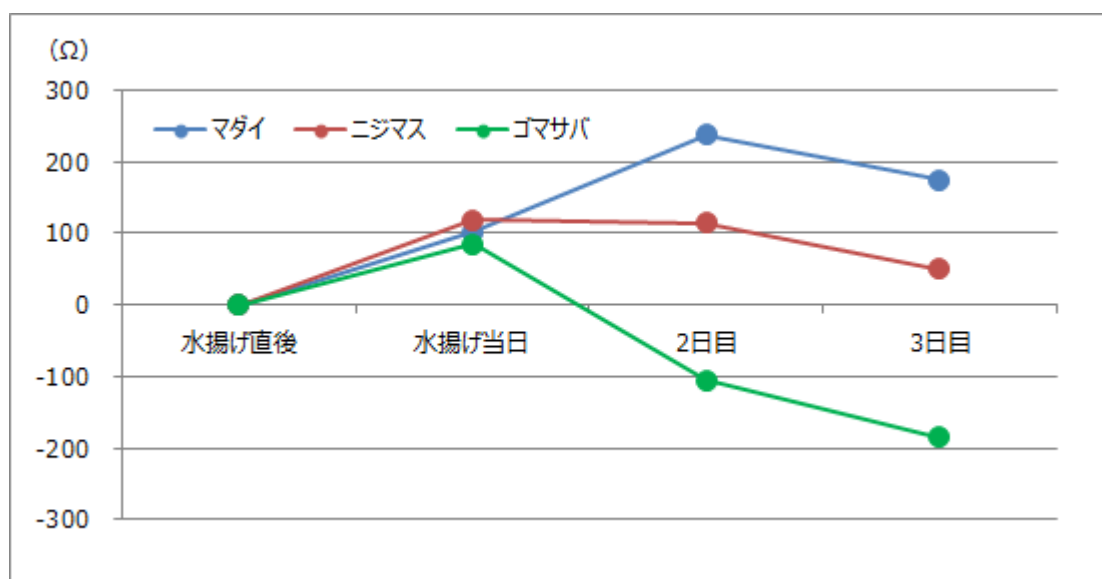
Fish Analyzer™ PRO が測定しているインピーダンスは、周波数の増加に対して低下する性質があり、その現象を「分散」と呼びます。Fish Analyzer™ PRO が測定している周波数帯の分散は「 β 分散」と呼ばれており、細胞膜と細胞内液・外液、つまり細胞組織の構造に起因します。

基本的に、低い周波数帯域では細胞膜が高い電気容量及び絶縁性を示すため、電気は細胞内を流れずに細胞の外を流れますので、インピーダンスは高くなります。逆に、高い周波数帯域では細胞膜が電氣的に短絡され、細胞内にも電気を流れますので、インピーダンスは低くなります。

一方、致死後の魚の状態は時間とともに変化し、それを反映する形でインピーダンスも変化します。長崎県総合水産試験場が4つの周波数のブリのインピーダンス変化を測定したところ、4つの周波数のインピーダンスは水揚げから24時間後に最も高い値を示し、その後、インピーダンスは低下していくのですが、特に低い周波数帯域のインピーダンスの低下が大きく、24時間から72時間後までの2日間で5kHzのインピーダンスは100kHzのインピーダンスと比べ、約3倍も低下しました。

また、図1にマダイ、ニジマス、ゴマサバの5kHzのインピーダンス変化を示しましたが、水揚げ直後からインピーダンスが上昇する傾向に違いはありませんが、インピーダンスが低下する時間には魚種間で差が見られます。このインピーダンスの低下は、保存期間中の鮮度変化に伴って構造分散が大きく変化し、細胞膜の劣化等に基づく電氣的特性が変化するからだと言われていています。また、細胞外抵抗の低下、すなわち低い周波数帯域のインピーダンスの低下は、細胞膜の電気容量減少の現れであり、細胞内液が細胞外へ流出するからだと言われていています。

細胞が水分を保持する能力は、間違いなく生鮮食品の重要な要素です。鮮度指標の代表には、生化学的な分析結果に基づくK値がありますが、Fish Analyzer™ PRO が表示する「魚の状態」は、K値とはまた別の意味合いを持っている「細胞の電氣的特性」に基づく鮮度指標です。



5-2. 流通先・消費地で「魚の状態」を表示する目的

Fish Analyzer™ PRO が表示する「魚の状態」は、「A」、「A'」、「B」、「C」、「D」の5段階で鮮度評価を行います。

流通先・消費地で魚の状態を表示する目的は、魚をより美味しく食べていただくためのご提案をしていただくことであり、最終的に消費者の皆様にご安心・安全をご提供していただくことです。

まず、「A」、「A'」、「B」について説明します。致死後、まずは魚の身の引き締まり具合（硬直）に比例するようにインピーダンスは上昇します。この身の引き締まった状態が、「A」または「A'」となります。その後、身の引き締まりが解けるとともにインピーダンスは低下し始めますが、まだ細胞の電気的特性は保たれており、この状態は「B」となります。

魚の状態は、細胞の電気的特性を基にした新しい鮮度指標ですが、K値とは無関係というわけではなく、K値1%～20%に相当する魚の状態は「A」・「A'」と「B」であり、このことより「生食でも美味しく食べることができます。」と表記しています。もちろん、K値を含め、鮮度評価のみで生食の可否を決めることはできませんのでご注意ください。サケやサバなど基本的に生では食べない魚は、たとえ魚の状態が良くても調理して食べてください。

次に、「C」、「D」について説明します。本格的に鮮度の低下が始まると、特に低い周波数帯域のインピーダンスが大きく低下します。これは、細胞の構造が変化し、細胞の電気的特性が変化してしまうからです。また、細胞の保水力も低下し、細胞内液が細胞外へ流出することで、さらに低い周波数帯域のインピーダンスは低下します。この細胞の電気的特性が変化し、保水力が低下した状態が「C」または「D」となります。K値20%以上に相当するのが「C」と「D」となりますので、「生食よりも焼いたり煮付けにしたり、調理した方が美味しく食べることができます。」と表記しています。もちろん魚の状態はK値を推定しているものではなく、腐敗までを見極めることはできませんので、ご注意ください。

その他、魚の状態判定とは別に、「E」は測定エラーと思われる場合に表示され、「解凍品」が表示されない検量線モードと魚の状態モードでは、解凍品の場合に「F」が表示されます。



※K値を含め、鮮度評価のみで生食の可否を決めることはできませんので、十分ご注意ください。

5-3. 生産地で「魚の状態」を表示する目的

致死後すぐ、まだ魚の身が引き締まる前の状態も「B」となり、さらに血液がある状態であれば「C」と表示される場合もあります。流通先・消費地での魚の状態は、「A'・A」→「B」→「C」→「D」と変化しますが、実は多くの魚の本当のスタートは「B」や「C」からとなります（ブリなど一部の魚種は「A」からのスタートとなります）。

致死後すぐは、魚体の身がまだ柔らかく、そのため魚の状態は「B」や「C」という結果になります。その後、血流が止まることや身が固くなることで低い周波数帯域の電気が流れにくくなり、「A」または「A'」となります。つまり、生産地での出荷前の魚の状態は「B」または「A」となるのですが、ここに生産地で魚の状態を表示する目的が隠されています。

長崎県総合水産試験場の報告によると、致死条件（神経締めと苦悶死など）を変えると硬直の開始時間が変わり、インピーダンスが上昇する時間も変わるとのことでした。具体的には、苦悶死では硬直開始が速く、インピーダンスの上昇も速い一方で、神経締めを施した魚は硬直開始もインピーダンス上昇も緩やかになります。死後の魚体は、死後硬直→完全硬直→解硬（硬直が解けること）→軟化→腐敗と進んでいきますが、解硬と同時に生化学的変化が速やかに起こり、軟化が始まるため、硬直を遅らせることがとても重要視されています。生産地で魚の状態が「B」から「A」、または「A」から「A'」に上がるのが遅いほど、その後の流通先・消費地での鮮度保持が期待できます。

また、活魚での競りを基本としている明石浦漁業協同組合では、活魚から魚の状態を確認することがあります。これは、通常のマダイの活魚は「B」や「C」であるのに対し、活魚の状態から「A」のマダイが存在したため、このマダイを調査したところ、明らかに身質がおかしかったことがわかりました。恐らく、この時点でかなりのエネルギーを消費していたのだと考えられます。

生産地で「魚の状態」を表示する目的は、鮮度保持技術を高めていただくことや品質管理を行っていただくことであり、最終的に流通先や消費地との信頼関係を築き上げていただくことです。

5-4. 実測値で厳密な品質管理を行いたい方へ

Fish Analyzer™ Proには、魚の状態モードがあります。ここでは、魚の状態の判定のほかに5kHzのインピーダンスが表示されます。検量線モードは100kHzのインピーダンスが表示され、こちらは主に脂の乗り具合を実測値で確認しますが、魚の状態モードは、インピーダンスの上昇具合や低下ポイントなどの鮮度変化を実測値で確認します。

5段階での鮮度評価は、非常にわかりやすい鮮度評価であり、単発の測定で現状を判定することができますが、一方で微小な変化までを厳密に反映することはできません。前記の通り、インピーダンスは魚の身の引き締まり具合に比例するように上昇し、身の引き締まりが解けるとともに低下しますが、致死後に急激にインピーダンスが上昇した場合、身の引き締まりが解けるのも速いので、早い段階で食べなければ旨みを感じることができません。このような場合、あらかじめ致死後すぐのインピーダンスを生産地で測定しておいてもらい、魚と一緒に数値も納品してもらえば、致死からどのくらい上昇したかがすぐに把握できますので、常に同じ品質の料理をお客様に提供することができます。

また、ブリやマグロなどは身の引き締まりが解けたタイミングが、最も旨みが増して美味しいと言われています。このような場合、インピーダンスを定期的に測定し、その中で上昇が止まったタイミングを把握すれば、最も良い状態の料理をお客様に提供することができますし、逆に白身魚などは身の引き締まった状態で、なおかつ旨み成分が出てきたタイミングが美味しいと言われています。このような場合、インピーダンスの上昇が止まる前のタイミングを把握すれば、同じく最も良い状態の料理をお客様に提供することができます。

このように、同じ判定でも「インピーダンスが急激に上昇しているのか?」、「インピーダンスが下がり始めたのか?」など、5段階の評価だけではわからない部分まで厳密に品質管理を行いたい方は、この魚の状態モードを有効に活用し、独自の品質管理方法を導き出してください。

6-1. 測定結果がおかしいと思ったら

	問題→よくある原因	対処方法
①	脂肪率がばらつく →うろこ、ヌメリ、表面乾燥のため	魚体の表面に問題がある場合、安定して電流を流すことができません。その場合は、魚体表面を湿った布で拭き、多少の水分が残った状態で測定を行ってください。
②	脂肪率が低い →致死直後に測定を行ったため	致死直後はまだ身が柔らかく、正確な測定を行うことができません。その場合は、氷蔵保存した上、少し時間を空けてから測定を行ってください。
③	はかる度に脂肪率が低くなる →魚体に電極を強く当てたため	魚体に電極を強く、長く当て続けると、皮下脂肪が押し潰されてしまい、数値が低くなってしまいます。その場合は、指で魚の表面を平らに戻してください。
④	脂肪率が高い →測定位置がずれたため	測定位置は左右のスレより上下のスレの方がばらつきは大きく、例えば極端に背ビレに近い位置や側線に電極を当てると、安定した測定が行えません。電極は所定の位置に当ててください。
⑤	アタッチメントを装着すると脂肪率が高かったりエラーが出たりする →アタッチメントに問題が発生したため	「6-3-2. アタッチメントの清掃について」をご覧くださいとともに、接続端子が変形してしまった場合はご購入された販売店にご連絡いただき、アタッチメントを交換してください（有償交換となります）。
⑥	脂肪率がおかしい →細胞の電気的特性が変化したため	Fish Analyzer™は鮮度変化の影響を受けます。Fish Analyzer™ Pro で魚の状態が「D」と表示された場合、正確な脂肪率を得ることが難しいとお考えください。

※上記以外問題が発生した場合や、対処方法でも回復しない場合は、弊社ホームページの「製品問合せ」までご相談願います。

<http://www.yamato-scale.co.jp/contact/prding/?id=126>

6-2. 充電式電池のご使用のお勧め

Fish Analyzer™では、有機 EL 表示管を採用しており、暗い場所でも数値をくっきりと確認することができますが、一方で消費電流が液晶タイプの表示管よりも高く、連続的に表示を続けた場合は数日で電池は無くなってしまいます。そのため、自動消灯機能を搭載し、携帯電話のように一定時間、キー操作がなかった場合は表示を消灯するようにしています。したがって、特別な場合を除き、自動消灯機能及び自動 OFF 機能は有効にしてください（購入時、自動消灯機能は 20 秒、自動 OFF 機能は 20 分に設定されています）。

また、環境問題を考慮し、付属されている乾電池が無くなった後は、繰り返し使用できる充電式の電池をご使用されることをお勧めします。参考までに、Panasonic 製充電電池の「eneloop」及び「EVOLTA」については、一連の電気評価試験を行い、問題なくお使いいただけることを確認しておりますし、電池寿命も通常の乾電池と変わらないことも確認しております。

6-3. 大切にお使いいただくために




6-3-1. 電池ボックス内の清掃について

最も多い故障の原因は本機内部への浸水です。Fish Analyze™は IP65 の防塵・防水等級ですが（防塵＝粉塵が内部に侵入しない、防水＝噴流水による有害な影響がない）、電池蓋の閉まりが不十分な場合は内部に水が入り込む恐れがあります。下記に電池蓋の取り付けかたと電池ボックス内の清掃のしかたについて示しましたので、定期的に電池ボックス内を清掃し、清掃後は電池蓋をしっかりと閉めてください。

<p>上下電池の接点部分を中心に、乾いたティッシュ等で汚れやほこりを拭き取ってください。万一、水滴が見られた場合は、水滴をきれいに拭き取ってください。尚、電池蓋周辺に埋め込まれているパッキン（透明色）が浮き上がっている場合は、速やかにお買い上げの販売店までご連絡願います。</p>	<p>電池蓋を取り付ける際は、電池蓋を下方よりしっかりと押し込み、上に隙間を作らないようにしてください。本体と電池蓋それぞれにラインがありますので、ラインを合わせてください。</p>
	

6-3-2. アタッチメントの清掃について

本体電極に海水やヌメリなどの汚れが付着したままアタッチメントを装着すると、汚れがアタッチメントの接続端子にも付着してしまい、測定ができなくなります（👤のまま表示が変わりません）。下記に清掃のしかたを示しましたので、ご使用後は必ず清掃を行ってください。

<p>アタッチメントを装着する際は、必ず水かアルコールで本体電極に付着した汚れを拭き取ってから装着してください。</p>	<p>アタッチメントの接続端子に汚れが付着した場合は、綿棒の先端を水やアルコールで湿らせた上、綿棒を接続端子の内側に向かってスライドさせ、汚れをきれいに拭き取ってください。</p>	<p>接続端子の外側を下方方向に向かって押し当てると、接続端子が外側に折れ曲がってしまいますので、ご注意ください。</p>
		

7-1. 明石浦漁業協同組合の「特選品出荷」の取り組みについて

2015年2月に発売されたFish Analyzer™ですが、もともと「平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で開発された商品であり、その事業の目的は「魚価向上」と「品質管理」でした。一方、発売後に最も多かった反応は、「脂乗りの低い魚が売れなくなる」といった言葉であり、事業の目的を達成することは容易でないことがわかりました。

その中で、前向きに「新しい価値が作れる」と言ってくれたのが、大和製衡の地元にある明石浦漁業協同組合でした。明石のブランド魚「明石鯛」は、豊富なエサ、環境の良い漁場、腕のいい漁師、鮮度保持技術など、いくつもの条件より「美味しい」との評判を得ていますが、良好な脂の乗りも美味しい理由のひとつであり、特に秋の明石鯛は脂乗りが良く、実際に高値で取り引きされることも多くなります。一方、夏は清涼感のある上品で淡泊な身質なのですが、それでも秋よりも魚価が下がる傾向があり、どのようにして夏の明石鯛に価値を付けるかが、年間を通じて魚価を安定させる課題となっていました。そこで、兵庫県立農林水産技術総合センターの指導のもと、「明石鯛特選品」の出荷に向けた取り組みが始まりました。



まず、特選品出荷までの下記4つの年間目標を立案し、目標達成に向け定期的に会議を開催しました。ちょっとしたことかもしれませんが、このように必ず顔を合わせ、意見を出し合うことが重要になるかもしれません。

- ①年間を通じて明石鯛の脂肪率を測定し、脂の乗り具合を調査する
- ②オープンキャンパスを通じて、脂の乗り具合に応じた明石鯛の美味しさをアピールする
- ③関係者による明石鯛品評会を開催し、明石鯛の特徴を明確にする
- ④夏を含めた季節毎の「明石鯛特選品」を出荷する



①年間を通じて明石鯛の脂肪率を測定し、脂の乗り具合を調査する

この作業には、①職員の方に測定に慣れてもらう、②測定のタイミングを決める、③季節毎の平均値を調査する、これらの目的がありました。明石浦漁業協同組合は活魚での競りを基本としているため、絞めた直後は不安定要素が強いこともわかり、それで少なくとも締めてから1時間後の出荷前に測定を行うことにしました。また、年間400匹以上の明石鯛の測定を行い、春、夏、秋の平均的な脂乗りを知ることができました（冬は五智網漁が禁漁になるため測定は行いませんでした）。

ブランド化を行う際、ある季節に特化して出荷を行うか、年間を通じて出荷を行うか、ひとつ議論になったところですが、季節毎に脂乗りに変動があるのは公知の事実であり、脂乗りの良い時期の数値にこだわる必要はないと判断し、年間通じての基準値ではなく季節毎に基準値を設けることにしました。結果として、年間を通じての明石鯛特選品の出荷が可能となり、全体的な魚価の底上げにつながりました。

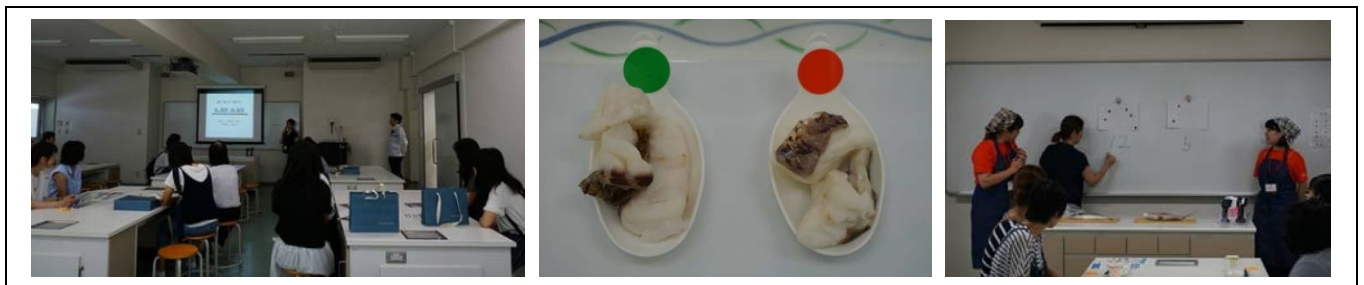


②オープンキャンパスを通じて、脂の乗り具合に応じた明石鯛の美味しさをアピールする

ブランド化を行う上でイベントを開催することはとても大切なことで、ひとつはブランド化を目指す魚の美味しさを知ってもらうこと、もうひとつはイベントに関するプレスリリースを行い、マスメディアを通じて広く活動を知ってもらうことです。神戸女子大学・健康スポーツ栄養学科は、栄養学・食品学・衛生学・調理学をベースに、アスリートに対する食事・栄養指導などの専門知識を習得するとともに、子供達の食育栄養教育や中高齢者の健康維持・介護予防など、幅広い知識とスキルの修得を図り、高い実践力と専門性を持つスポーツ栄養士を育成する学科で、この学科への入学を目指す高校生に対し、「見て、知って、食べよう～私の脂肪と魚の脂質～」と題したオープンキャンパスを開催しました。

オープンキャンパスでは、高校生への講義を開催し、魚の脂質と健康との関係について知ってもらうとともに、開催時期が夏でしたので、夏に最適な「明石鯛の冷製蒸し料理」を試食してもらい、明石鯛の美味しさを知ってもらいました。また、明石鯛は言うまでもなく天然魚ですが、あえて脂乗りの異なる養殖魚との食べ比べてもらい、それぞれの良さも知ってもらいました。

このオープンキャンパスをプレスリリースしたことで、新聞記事に掲載してもらい、後日、テレビの取材も受けました。これらを通じて、世間の方に明石鯛特選品出荷に向けた準備を進めていることを知ってもらえたのも、オープンキャンパスを開催した成果だったと考えています。



③関係者による明石鯛品評会を開催し、明石鯛の特徴を明確にする

ブランドとは、「①「もの」の価値を備え、②他の商品又はサービスと差別化することを意図した情報を付した商品又はサービスであって（多くは「商標」を意味します）、③その「もの」の価値と情報の組み合わせに対し、消費者が良いイメージを抱き、信頼を置いているもの」と定義されています（農林水産省・地域ブランドワーキンググループ報告書より）。

「明石鯛」はすでに地域団体商標を取得しており、伝統の技“明石浦メ”を施した明石鯛はものの価値も十分備えています。あとは、食べたときに消費者の方がどのようなイメージを抱くか、それを言葉で明確にする必要があったため、水産物の専門家、管理栄養士、地元の明石市職員、水産物に関する取材を行っている新聞記者、そして普段は魚に馴染みの低い一般の方にも集まってもらい、明石鯛の品評会を開催しました。



品評会では、脂乗りが特選品の基準を満たした明石鯛と、逆に基準を満たしていない明石鯛の2種類を用意し、まず脂乗りの違いを確認してもらった上、明石鯛特選品について、以下3つのコメントをもらいました。尚、消費地で食されることを考慮し、致死後1日が経過した明石鯛を試食してもらいました。試食の結果、参加者からは特徴3の「モチリとした食感」を挙げる方が多く、明石鯛特選品を食された方はこの“モチリとした食感”を味わい楽しんでもらえるという、言葉の特徴を導き出すことができました。

●明石鯛の食べたときの特徴

特徴1. 上品で洗煉させた味

特徴2. 口に広がる甘みと旨み

特徴3. モチリとした食感



④夏を含めた季節毎の「明石鯛特選品」を出荷する

取り組み開始から一年後の2017年の春より、明石鯛特選品の本格的な出荷が開始されました。特選品出荷に際し、まず明石鯛特選品を入れる発泡スチロールを変えました。従来の発泡スチロールは薄いピンク色の箱であり、こちらにも他にはない明石浦漁業協同組合を象徴する箱だったのですが、明石鯛特選品は黒色の箱に金色のテープを貼り、ラベルに従来の象徴であったピンク色を残すことで、これまでの明石浦漁業協同組合のイメージを損なうことなく、尚かつ、これまで以上の特別感あふれる専用の箱を製作しました。



次に、明石鯛特選品を購入できる方を、出荷契約を結んでいる方のみと限定しました。これは、簡単に購入できないようにすることで購入できるお客様にさらなる特別感を与え、価格に反映させる狙いがありました。

また、すべての明石鯛を測定していると思われがちですが、実際にすべての明石鯛は測定していません。前記の通り、測定は出荷前に行うのですが、出荷前の忙しい中での全数測定は職員に負担を与えるだけでなく、魚の品質（鮮度）にも影響を与えます。特選品として必要な数のみを測定し、それ以外は測定せずに出荷します。これは、標準品も脂乗りが同等である可能性を残しますので、標準品の価値を落さないことにもつながります。ただ、実用面での明石鯛特選品の大きな価値になるのですが、購入されるお客様は、脂乗りが同じである前提でその後の調理法等を考えられますので、常に脂乗りが一定以上のものを提供すれば、お客様商品の「品質の安定」にもつながります。

●明石鯛特選品の条件

- ①明石港に水揚げされた明石鯛であること。
- ②見た目が美しいこと。
- ③締めてから1時間後に Fish Analyzer™で測定し、脂乗りがその季節の基準値以上であること。
- ④出荷に関する売買契約書を結んでいること。
- ⑤標準品とは別の黒色発泡スチロールに入っていること。

明石鯛特選品を出荷した効果として、まず前記の通り、標準品の価格を下げることなく特選品の魚価を上げることができ、全体的な魚価の底上げにつながりました。また、これまで取引の少なかったところからも特選品の注文が入るようになりました。

課題としては「継続」だと考えています。測定は一手間増える作業であり、価格に反映できなければ費用対効果としてはマイナスです。明石浦漁業協同組合では、明石鯛に続き「明石浦スズキ」のブランド化を目指しています。明石浦産のスズキは、一本釣り漁法でストレスを与えずに味が落ちにくく、また速い潮流で泳ぎ、イカナゴなどの豊富なエサを食べて動き回っていることで淡泊で香りが良いのが特徴です。一方で、知名度が低いのも事実であり、脂乗りの良さや鮮度の良さを全国の方に知ってもらえれば、明石鯛と同様に価格に反映でき、「継続」につながると考えています。

よく「明石浦だから事業の目的を達成できた」と言われることがあります。確かに、明石浦漁業協同組合は日本トップの漁協であり、明石鯛もすでにブランド魚としての地位は確立していましたが、それでもさらに上を目指す姿勢があるからこそ、事業の目的を達成できたのだと考えています。



明石浦「特選品」の出荷開始について

明石浦漁業協同組合では、2015年より明石鯛をはじめとする明石港で水揚げされた魚の品質を、機械を使って確認しております。県農林水産技術総合センター指導のもと、測定には「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で開発された「Fish Analyzer™」を使用し、発売元である地元の企業・大和製衡株式会社とともに2016年だけで800匹以上の魚の測定を行うなど、新たなサービスの提供に向けた準備を進めてきました。

「Fish Analyzer™」は魚体に微弱な電気を流し、魚の脂肪率を表示します。脂は電気を通しませんので、脂乗りの良い魚ほど電気は流れにくくなります。一方で、「Fish Analyzer™」の正式名称は「品質状態判別装置」であり、電気の流れは魚の品質によっても左右されます。鮮度の悪い魚や内傷のある魚は細胞が変化しているため、仮に脂乗りが良くても電気は流れやすくなってしまい、低い数値を示します。解凍品に至っては、数値すら示しません。つまり、「Fish Analyzer™」が示す高い数値は、脂乗りに優れた品質の良い「美味しい魚」であることを証明してくれます。

2016年11月、県水産関係者、大学教員、管理栄養士、水産専門の記者などが集まり、「Fish Analyzer™」で数値の高かった明石鯛の品評会を行いました。参加者からは、従来から言われている「上品で洗練させた味」との評価に加え、「口に広がる甘みと旨み」「モチリとした食感」という、脂の乗った明石鯛の美味しさが容易に想像できる評価をいただきました。

そこで、2017年5月より「Fish Analyzer™」を活用した新たな出荷の取り組みを開始しました。天然魚は季節毎に脂乗りが異なるため、まずはそれぞれの季節に適した脂乗りがあることを「Fish Analyzer™」で確認します。その上で、一定基準を満たしている商品の中から数値が高い商品、脂乗りの良い商品を特別に発注した黒い発砲に入れ、明石浦「特選品」として出荷します。

元々、明石浦漁業協同組合が出荷する商品は高い評価をいただいておりますが、それでもこの取り組みを通じて、お取引いただく皆様に新たな価値をご提供できればと考えております。

- ① 料理を提供されるお客様は、一定の脂が乗っていることを想定した上で調理方法を考えられます。常に脂乗りが一定以上であれば、ご購入いただいたお客様商品の「品質の安定」にもつながります。
 - ② 脂乗りを含め、魚の品質状態を確認することは、より一層の「食の安心」につながると考えております。
 - ③ 明石海峡の魚の脂乗りの良さ、美味しさを伝えることは、水産物のさらなる発展につながると考えております。
- この美味しさと安心の詰まった明石浦特選品を、是非ご愛顧いただきますよう、宜しく願い申し上げます。



「Fish Analyzer™」



特選品パッケージ（左は標準パッケージ）



※明石浦漁業協同組合では、鮮魚・活魚をお買い上げいただく全てのお取引先に対し、あらかじめ当組合所定の売買契約書での契約取り交わしをお願いしております。お取引希望のお問い合わせは、当組合の業務部にて承ります。

TEL (078) 912-1771 FAX (078) 912-2094

近日公開予定

近日公開予定

7-3. Fish Analyzer™による栄養管理について

あまり注目されていませんが、実は魚の脂肪率をはかることは栄養管理を行う上で大切なことであり、例えば脂質異常症患者は適切な脂質コントロールを行わなければ動脈硬化のリスクが高まるため、できるだけカロリーの低い食事を提供しなければなりません。逆に、腎臓病患者はタンパク質を制限しなければなりません、制限すると全体のエネルギー量が減ってしまうので、その分を脂質から補わなければなりません。

現状の栄養管理は日本食品標準成分表をもとに行われていますが、実際の脂肪率（脂質含量）には個体差があります。例えば2014年12月5日に千葉県銚子港で水揚げされたマサバ400gクラスの脂肪率をみでみると、最も低いもので15.99%、最も高いものでは24.53%とその差は8.54%、これをカロリーに換算すると76.5kcalにもなりました。これは、単純に10分程度のランニングに相当しますので、あらかじめ脂肪率を知ると知らないとは非常に大きな差になります。

また、脂肪率を知れば調理の仕方も変わってきます。例えば、マアジ、マサバなどは焼くことでカロリーが増える魚で、逆にブリなどは焼くことでカロリーが減る魚です。こちらもあらかじめ脂肪率を知ること、「今日のブリは脂が多いので焼いて食べよう」といった具合に、ちょっとした工夫を行うことができます。



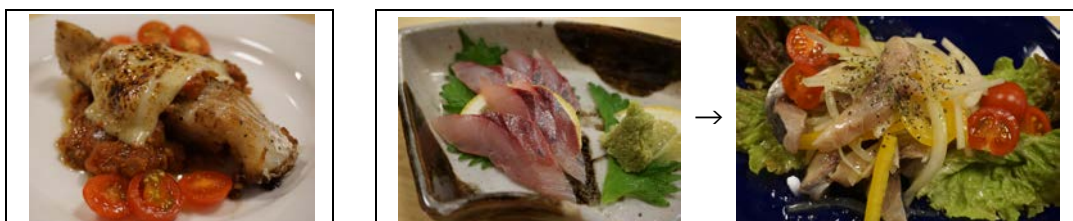
一日の摂取カロリーとして考えれば微々たるものですが、この積み重ねが疾病の引き金となるので、魚の脂肪率を把握することはとても大切なこととなります。もちろん、一概に脂肪率だけを知ればよいというものではありませんが、それでも脂肪率を知ることが栄養管理を行う上で大きな効果が期待できます。

7-4. 魚を美味しく食べるために

兵庫県明石市にある「まえもん kitchen おおき家」で、新しい試みを行っていただきました。旬ではないまだあまり脂の乗っていない脂肪率2%のスズキと、魚の状態が「C」判定のマアジを持ち込み、魚の状態に応じた料理を作ってもらいました。

スズキはチーズを乗せて焼き、ミートソースを和えることで、濃厚でありながらスズキの淡白な美味しさを引き出す料理となりました。もしスズキ自体に脂がもっと乗っている状態であれば、この調理法ではなかったはずですが。「C」判定のマアジはあえて、生で食べる刺身とさらに一手間加えて軽いきずし風に調理したカルパッチョ仕立てで食べ比べをしてみました。こちらの結果は歴然で、刺身で食べたときは後味を強めに感じましたが、塩の脱水作用により余分な水分と臭みが抜け、マアジの旨みを活かしたまったく別の料理に生まれ変わっていました。また、脂量が多い魚を調理する場合、味がなじみにくいことがあるので、切りかけ造り(切り込みを入れてから切り離す)など包丁の入れ方を変えるという工夫をすることもできます。

Fish Analyzer™ および、Fish Analyzer™ PRO は素材が本来持っている良さを、よりの確に見極めた上で、調理方法に変化と幅を持たせることができるのです。魚の状態を判別するひとつの指標となり、「魚価向上」や「品質管理」にご活用していただくことも大切な任務ではありますが、魚を扱う方、食べる方に安心・安全を与え、最後まで魚を美味しく食べていただくことにご活用していただきたいと願っております。



大和製衡ホームページ： (<https://www.yamato-scale.co.jp/>)

Fish Analyzer™ 製品情報： (<http://www.yamato-scale.co.jp/products/detail/id:294>)

製品問合せ： (<http://www.yamato-scale.co.jp/contact/prding/?id=126>)

信頼・技術・創造

大和製衡株式会社

本社営業	〒673-8688	兵庫県明石市茶園場町5番22号		TEL.078-818-6540
東日本支店	〒105-0013	東京都港区浜松町1丁目22番5号	KDX浜松町センタービル4階	TEL.03-5776-3123
中日本支店	〒460-0008	名古屋市中区栄5丁目27番14号	朝日生命名古屋栄ビル5階	TEL.052-238-5731
千葉営業所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀4丁目8番18号	ショー・エム都賀1階	TEL.043-214-3920
九州営業所	〒812-0018	福岡市博多区住吉4丁目3番2号	博多エイトビル1階	TEL.092-471-1921

Fish Analyzer™ Ver.3.00, Fish Analyzer™ PRO Ver.1.00「技術資料」

初版（発行日：2018年3月1日）